

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書

(自一月十二日會議開始至同月三十一日)

大正八年二月五日調

目 次

經過一覽
經過詳報

千九百十九年巴里講和會議經過一覽

時	日	會 議 ノ 性 質	參 列 國	議	事
一月十二日	同	休 戰 更 新 協 議 會	英 佛 伊 米 日	休戰更新條件	
一月十三日	同 右			甲、獨逸帝國銀行在庫金保全 乙、獨潛水艇處分 丙、敵國へ糧食補給 丁、敵國奪去機械類恢復 戊、敵國艦船處分等	
同	日	講 和 打 合 會(第 一 次)	英 佛 伊 米	甲、代表權 一、代表權ノ有無 二、(二)(一) 英殖民地關係 三、(二)(一) 伯國ヲ三名トス 四、委員數	
同	右			一、討議事項 二、國際聯盟 三、新興國 四、境 界 五、殖 民 地 (ウヰルソン説)	
一月十五日	同			甲、新聞取締 當 分 書 記 局 公 表 二 限 ル コト	

			一月十八日	聯合與國總會議(第一回)
一月二十三日	同	同	一月二十日	講和打合會(第五次)
			一月二十一日	同
			一月二十二日	右(第七次)
右(第八次)	同	同	日英米佛伊	共國戰交斷
右	右	右		
甲、佛大統領ノ開會辭 乙、議長選舉 丙、副議長其ノ他幹部選舉 丁、議事日程 一、戰爭ノ責任 二、國際法違反ノ制裁 三、勞動ニ關スル國際法制 在露佛大使「ヌーランス」ノ露國事情報告 甲、前駐露丁抹公使「スカベニウス」氏露國談 乙、對露策討議者ト「サロニカ」ニテ會スル コト 二、過激派ニ文書ヲ送ルコト 甲、波蘭救援(經濟委員派遣ノ件ノミ決定) 乙、露國諸團體招致 丙、國際聯盟 (三要綱並委員會設置内相談) 以上午後 甲、(コト)敵兵力削減 乙、(コト)武器制限ヲ國際聯盟ト關聯セシムル 丙、損害賠償 乙、萬國勞動法制 丙、委員會設置決定 委員會設置決定				

(5)

一月十六日	同	右(第三次)
一月十七日	同	右(第四次)
右	同	右
甲、新聞取締 記者ヲ或ル會合ニハ出席セシムルコト 乙、代表委員數改補 丙、會議幹部ノ構成 丁、新方法ニ付新聞記者ノ希望ヲ聞クコト 乙、代表委員數改補 丙、會議用語 丙、會議幹部ノ構成 甲、新聞取締 記者ヲ或ル會合ニハ出席セシムルコト 乙、代表委員數改補 丙、會議問題 丙、露國問題 丙、英國最近態度辯明 甲、新聞取締 記者ヲ或ル會合ニハ出席セシムルコト 乙、代表委員數改補 丙、國際聯盟 二、戰爭責任 三、國際法違反ノ制裁 四、勞動ニ關スル國際法制 丁、新聞記者 十八日ニ十五人丈出席セシム		

(4)

一月二十一日

右(第九次)

同右

甲 獨逸兵削減問題

考査二決定

丙、歐小國爭戰休止警告案
丁、波蘭派遺委員→訓令等
戊、經濟財政委員設置
己、獨逸殖民地問題

二、不還附決定

ヒコーリー 南阿スマツツ
ツセイ、加奈陀ボーデン) 新西蘭

國際聯盟（ウヰルソン演説） 委員會設置決定

(小國側ハ委員數ニ付不平ヲ述フ)

甲 小國會議長選定
乙 船舶被害

内、羅國「フリンセス」島へ委員差遣希望
丁、芬蘭獨立

戊、殖民地問題
英殖民地委員招致ノ件

日本、青島南洋ニ關スル説明ノ件
支那委員招致ノ件

戊ノ續、
一、帝國主義説明（改野男）
(以上二項)

二、 帝國三強論（ウヰルソン説明） 聯盟委員管理（ウヰルソン説明）

(南阿ボタ、漆ヒユース、英ロイドジヨージ)

各類委員會／／小國委員制當

一月二十四日 同	右(第九次)
甲、獨逸兵削減問題 委員會ニテ復員案考査ニ決定	同
乙、各國共通徽章制定	右
丙、歐小國爭鬭休止警告案	同
丁、波蘭派遣委員ヘノ訓令等	同
戊、經濟財政委員設置	同
己、獨逸殖民地問題 一、不擴附決定	同
二、處分方法論議(英ロイドショーリ、潔 ヒュース、南阿スマツツ、新西蘭マ ッセイ、加奈陀ボーデン)	同
三、右ニ關スル異論 (南阿ボタ、潔ヒュース、英ロイドツ ヨージ)	同
戊ノ續、 一、帝國主張説明(牧野男) 二、聯盟委員管理(ウヰルソン説明) 三、右ニ關スル異論 (南阿ボタ、潔ヒュース、英ロイドツ ヨージ)	(以上午前)
右ノ外 英殖民地委員 支那委員 (午後)	(午前)
一月二十七日 講和打合會(第十次)	聯合與國總會議(第二回)
一月二十五日 同	前總會議ト 同様
一月二十七日 同	國際聯盟(ウヰルソン演説) 委員會設置決定 (小國側ハ委員數ニ付不平ヲ述フ) 甲、小國會議々長選定 乙、船舶被害 丙、羅國「ブリンゼス」島ヘ委員差遣希望 丁、芬蘭獨立 戊、殖民地問題 英殖民地委員招致ノ件 (日本、青島南洋ニ關スル説明ノ件 支那委員招致ノ件

経過詳報

○千九百十九年一月十二日休戦條件協議會（注意　當日ノ協議會ハ「ヴエルサイユ軍事會議ノ」）

一、開催日時　一九一九年一月十二日午後三時

一、會場　佛國外務省

一、出席者　英、米、佛、伊

一、内容

一、同日即一月十二日夜發表ノ「コンミニュニケー」ニ依レハ休戦更新ニ關スル問題ノ攻究アリタル後聯合國首相及外相ハ講和豫備會議ノ順序及手續ノ調査ヲ開始シタリ、右調査ハ十三日午後續行ノ筈

二、同日ノ新聞報道ニ依レハ左ノ議事アリタル由ナリ

イ　十五日頃「フォツシユ」將軍ト獨逸代表者トノ間ニ調印セラルヘキ休戦更新ノ約款中ニ挿入スヘキ新條件ノ議定

ロ　獨逸ノ内情報告

ハ　波蘭問題討議

A 「ボルシエヴヰズム」ノ波蘭侵入ヲ防止スル爲並波蘭獨逸間ノ葛藤ヲ終息セシムル目的ヲ以テ聯合軍隊波蘭出征ノ必要ナキヤ

B 若右ノ必要アリトセハ佛國ニ在ル波蘭軍二個師團及米軍一個師團ヲ先ツ「ダンチツヒ」ニ派遣シ更ニ波蘭内地ニ進マシメムトスルノ計畫如何

(米軍派遣說ハ全然無根ナル旨「ランシング」ヨリ米國通信員ニ對シ宣言アリタル由)

○千九百十九年一月十三日休戦條件協議會

八

一、開催日時 千九百十九年一月十三日午後自二時半至五時半

一、會場 佛國外務省

一、出席者

佛國

内閣議長「クレマンソウ」

海軍大臣「レーク」

商務大臣「クレマンテル」

工業復興大臣「ルシヨール」

聯合國軍總司令官「フォオツシユ」元帥

米國

大統領「ウヰルソン」

國務卿「ランシング」

「ブリス」將軍

海軍大將「ベンソン」

英國

首相「ロイド・ジョージ」

外務大臣「バルフォア」

海軍少將「プラウニング」

伊國

外務大臣「ソンニノ」

海軍中將「ロビラン」

海軍少將「グラシー」

日本

珍田大使

松井大使

(兩大使ノ出席ハ一月十日佛「ビション」外相ノ招請ニ基ク) 等

一、議題

甲 獨逸帝國銀行在庫金保全ニ關スル佛國「クロツツ」藏相ノ提議(「クロツツ」氏ハ前顯本會議出席者人名中ニナシ)

(イ) 要旨 獨逸帝國銀行ニ在ル金貨金塊及紙幣印刷機械ヲ安全ノ場所ニ移轉スルコトヲ休戦條約ノ延長ニ際シ祕密條項トシテ挿入スルコト

(ロ) 米國「ウヰルソン」大統領ノ質問

本提議ハ休戦條約ノ範圍外ニ瓦ルコトナキカ又斯ル措置ハ實際如何ニ終ルヘキカ

(ハ) 英國「ボナー、ロー」國璽尙書ノ質問

獨逸ニ於テ本件ヲ休戦條件ト離シテ自ラ之ヲ實行スヘシト謂フトキハ如何ニスヘキカ

本提議ハ結局採用セラレタリ尙條項文句ハ總テ「フォツシユ」將軍ニ於テ適宜作成スルコトニ決定ス

乙、獨逸潜水艇處分ニ關スル佛國「レーラ」海相ノ提議

(イ) 要旨

休戰條約第二十二條(條文後尾ニ在リ)海軍條項ノ未タ實行セラレサルモノアリ從テ一月十三日聯合海軍當事者間ノ決議ニ依リ潛水艇ニシテ航海ニ堪ユルモノハ曳船シテ聯合國ノ港ニ連レ來リ其ノ他航海ニ堪ヘサルモノ又ハ製造中ニ係ルモノハ之ヲ破壞スルコトトシタルニ付是亦休戰條約延長ニ際シ一條項トシテ附加スルコト

(ロ) 米國「ウヰルソン」大統領「ロイド・ジョージ」氏「ボナー、ロー」氏ハ本提議ヲ以テ大體ニ於テ從來ノ條項ニ實行ニ關スルモノト認ムルニ於テ一致シ「クレマンソウ」氏ハ引渡期日ノ明定ヲ唱ヘタリ尙「プラウニング」少將ハ引渡シ得ル狀態ニ在ル獨逸潛水艇ハ尙六十餘隻ナル旨注意シタリ

本提議ハ採用セラレタリ

丙、敵國へ糧食補給ニ關スル佛國「クレマンテル」商務大臣ノ提議

A 敵國其ノ他諸國ノ糧食補給ニ關シ獨逸船舶ヲ使用スルノ件

(イ) 要旨

敵國其ノ他諸國ノ糧食ノ缺乏ヲ滿スカ爲ニハ麥二拾萬噸及肉七萬噸ヲ要シ之カ輸送ニハ約八十萬噸ノ船腹ヲ要スヘク(米國「フーヴー」氏ノ見積)而シテ獨逸ニハ尙使用シ得ヘキ二百七十萬噸ノ船腹アルニ付右目的ノ爲ニ提供セシムルコト

(ロ) 英國「バルフォア」外相意見

右ハ穩當ナル提議ナルカ唯食物ヲ聯合側ヨリ供給スルコトヲ以テ當然ノ事ノ如ク了解セシムルハ面白カラス從テ獨逸側ニテ船ヲ供給スルニ於テハ假ニ一箇月間ノ食物ヲ供給スヘシト謂フカ如ク一時的供給ノ形トナスコトモ一

案ナラムカ

(ハ) 英國「ボナー、ロー」氏發言

英國ニ於テモ個人間ノ取引トシテ獨逸ヨリ船腹ヲ得ルコトニ努メタルモ獨逸ハ之ニ應セナリキ

(ニ) 佛國「フォツシユ」元帥發言

嘉年十二月十三日休戰條約延期ノ際ニモ獨逸船舶二百五十萬噸ヲ提供スヘキコトヲ該シタルカ獨逸委員「エルツベルグ」ハ船舶ヲ依然獨逸國旗ノ下ニ置キ且乘組員モ亦其ノ儘ニ存置シ置クヘキコトヲ條件トスルニ於テハ承諾シ得ヘキ旨述ヘタルコトアリ

(ホ) 英國「ボナー、ロー」氏質問

若獨逸カ此ノ提議ヲ容レサル時ハ如何ニスヘキヤ

(ニ) 米國「ウヰルソン」大統領發言

人民ヲ餓餉ヨリ救フノ案ヲ提出シテヨリ茲ニ二箇月ヲ經過シボタ決定ヲ見ナルコトハ吾人等ニ於テ責任ナシトセス

(ト) 佛國「フォツシユ」元帥發言

前述ノ如ク既ニ嘉年十二月十三日ニ提議セシモ糧マフナリシ次第ニテ吾等ノミノ責任ニ非ス

(チ) 米國「ウヰルソン」大統領發言

兎モ角尙此ノ上ニ遷延スルコトヲ許サナルニ付休戰委員ハ直ニ敵國委員ト更ニ此ノ問題ヲ討議シ敵國委員之ヲ承諾セサレバ「フォツシユ」元帥ニ於テ休戰條件トシカ之ヲ要求スルコトスヘシ

右ニラ大體同意セリ

B 右補給糧食代價支拂ニ關スル同商務大臣ノ提議

補給糧食代價ヲ如何ニシテ支拂フヘキヤ右代價ノ見積ハ四十五億法許ナルヘシ

(ロ) 英國「ボナー、ロー」氏發言

之レ多大ノ戰費ノ外ニ新タニ我カ國債ヲ增加スルモノナリ

(ハ) 佛國「クロツツ」藏相提議

右補給糧食ヨリハ例ヘハ白耳義ノ救濟ヲ先ニスヘキ要アリ右ノ支拂方法ニ關シテハ講和會議ニ於テ今少シ講究ワ加ヘタル上ノコトトシタシ

(ニ) 米國「ウヰルソン」大統領發言

速ニ補給ノコトヲ決定セサレハ敵國政府ノ如キハ或ハ瓦解收拾スル能ハサルニ至ルヘキヲ虞ル

(ホ) 佛國「ビション」外相提議

根底ニ於テハ各員一致スルモノナルヲ以テ資金如何ノ點ハ今後更ニ其ノ方法ヲ講スルコトトスヘシ

右ニテ折合ヒタリ
丁、休戰條約第十九條(條文後尾ニ在リ)ニ依リ敵國カ奪去リタル諸機械ノ回復ヲ要求スルコトニ關スル佛國「ルショール」工業復興大臣提議

右ニ關シテハ「ウヰルソン」氏ハ其ノ機械力證明シ得ラルルヤトノ質問ヲ發シタルニ對シ「ルショール」氏ヨリ獨逸ニハ掠奪會社アリテ書類モ存シ多クノ場合證明シ得ヘシトノミニテ決定セリ

戊、海軍條項第二十三條及三十條(條文後尾ニ在リ)不實行ニ關シ多少ノ討議アリ

午後五時散會ス

参考(第一)

休戰條約第十九條、第二十二條、第二十三條、第三十條ノ全文左ノ如シ

第十九條 財政ニ關スル條款

聯合國及米國側ニ於テ後日ニ至リ一切ノ補償ヲ要求スルノ權利アルコトヲ留保シ獨逸ハ損害ヲ填補スヘシ休戰期間敵側ニ於テハ聯合側ノ損害補償ノ擔保トナルカ如キ公共有價物件ヲ毀損スルコトアルヘカラス白耳義國立銀行金庫ノ即時返還並占領地域内ニ於ケル公私ノ利益ニ關係アル一切ノ文書、正金、株式社債、銀行券、紙幣並之カ發行ニ要スル材料ハ一般ニ即時返還スヘシ

獨逸人ニ掠奪セラレ或ハ獨逸人ニ引渡シタル露國及「ルーマニア」ノ正金ハ之ヲ返還スヘシ
該正金ハ講和條約締結ノ際マテ聯合國側ニ於テ保管スヘシ

第二十二條 潛水艇全部(現存潛水巡洋艦及水雷敷設船一切ヲ含ム)ハ其ノ兵裝並艦裝ノ儘聯合國及米國ノ指定スル港ニ於テ之ヲ聯合國及米國ニ引渡スヘク航行ノ能力ナキ潛水艇ハ一切ノ人員及材料共武裝ノ解除ヲ行ヒ之ヲ聯合國及米國ノ監視ノ下ニ置クヘシ

航行ノ能力アル潛水艇ハ指令ニ應シ直ニ指定引渡港ニ向ヒ獨逸港ヲ出發スルコトヲ要ス其ノ他ノ潛水艇ハ成ル可ク速ニ前項ノ處置ヲ執ルヘシ

本條ノ規定ハ休戰規約調印後十四日以内ニ實施スヘシ

第二十三條 聯合國及米國ノ指定スヘキ獨逸軍艦ハ直ニ武裝ヲ解除シ聯合國及米國ノ指定スル中立國港ニ之ヲ抑留シ各船艤備部隊ノミヲ殘シ之ヲ聯合國及米國ノ監視ニ附スヘシ但シ中立國港ニ抑留スルコト能ハサルトキハ聯合國ノ港ニ之ヲ抑留ス

聯合側ノ指定スル軍艦ハ戰闘巡洋艦六隻戰闘艦十隻輕裝巡洋艦八隻(中五隻ハ發動水雷敷設艦タルコト)最新式驅逐艦

五十隻此ノ他一切ノ軍艦(河川用軍艦ヲモ含ム)ハ之ヲ聯合國及米國ノ指定スル獨逸ノ根據地ニ集中シ全部武装解除ノ後聯合國及米國監視ノ下ニ置カルヘシ

假裝戰艦ノ武装ハ一切解除セラルヘシ

抑留セラルヘキ船艦ハ休戰規約調印後七日以内ニ獨逸諸港ヲ出發スルノ準備ヲ爲スヘシ

前項出發ノ指圖ハ無線電信ヲ以テ之ヲ傳達ス

第三十條 聯合國及米國ニ屬スル一切ノ商船舶ニシテ獨逸管理ノ下ニ在ルモノハ聯合國及米國ノ指定港ニ於テ交換條件ニ依ラス之ヲ還附スヘシ

参考(第一)

休 戰 新 條 約

二月十七日迄延長

一月十六日「トレーヴィス」ニ於テ「フォッシュユ」將軍「ブロウニンク」提督及獨逸委員ノ間ニ調印セラレタル休戰期間延長ノ新規約要領

十一月十一日調印ノ休戰條約ハ更ニ二月十七日午前五時迄之レヲ延期ス尙聯合國政府ノ同意アルニ於テハ講和假條約ノ締結ニ至ルマテ延期セラルヘシ延期ノ期間中實行未濟ノ諸事項ヲ完了スルコトノ爲更ニ左ノ諸項ヲ加ヘタリ

一、十二月十七日「スバーノプロトコール」(未タ發表セラレス)ニテ規定セラレタル追加鐵道材料機關車五百車輛一萬九千ノ代リニ農具ヲ引渡ス事(農具ノ數量品種ハ之レヲ略ス)右農具ノ三分ノ一ハ三月一日迄ニ殘リハ遲クモノハ六月一日

迄ニ引渡サルヘキモノトス

二、在獨逸露國俘虜監督ノ爲一ノ委員會ヲ設ケ「コムミッショソ」ニハ聯合諸國ヨリ俘虜送還ノ爲獨逸ニ派遣セラレ居ル將校加入シ本據ヲ柏林ニ置キ聯合國政府ノ訓令ニ從ヒ露國俘虜ニ關スル一切ノ事項ニツキヲ獨逸政府ト直接交渉ス

三、航海ニ堪ヘ又ハ曳船ニテ航行シ得ル總テノ潛水艇ハ直ニ之レヲ聯合國港ニ回航セシムヘク引渡シ得サルモノハ聯合

國官憲監視ノ下ニ完全ニ破壊又ハ解體スルコト

潛水艇ノ建設ハ直ニ之ヲ停止シ現ニ建造中ノ物ハ聯合軍官憲監視ノ下ニ之レヲ破壊又ハ浮體スルコト

獨逸委員ハ既ニ建造サレ若ハ現ニ建造中ノ(不明)艦船ノ完全ナル表ヲ提出スルコト

獨逸官憲ハ速ニ獨逸諸港ニ抑留サレ居ル聯合國商船ヲ引渡ス爲一切ノ方法ヲ講スルコト
四、獨軍ノ西部占領地域ニ於テ獨逸軍部官憲又ハ個人ノ奪取セル農工業用諸機械器具類ハ其ノ現位地ニ復歸セシムル爲總テ之ヲ聯合國ノ處分下ニ置クコト

五、聯合國軍憲ハ新タル保障トシテ其ノ適當ト認ムル場合六日ノ豫告ヲ以テ「ストラブルグ」要塞ノ一部ヲナス「ラ

イン」右岸ノ保壘ヲ其ノ前方五糠乃至十糠ノ地帶ト共ニ占領スルノ權利ヲ留保ス

六、獨逸政府ハ獨逸及歐洲ノ他ノ地方ニ對スル食糧補給ヲ確實ナラシムル爲休戰ノ繼續中獨逸商船ヲ聯合國及米國ノ監督及國旗ノ下ニ置クコト但シ右ハ是等商船ノ最後ノ處分ニ何等ノ關係ナキコト

聯合國及米國ハ必要ノ場合右商船下船員ノ一部若ハ全部ヲ換フルコトヲ得

○講和ニ關スル一月一二日第一次打合會

一、開催時日 千九百十九年一月十三日午後自五時至七時

一、會場 佛國外務省内

一、出席者

佛 「ビション」(座長)
「クレマンソウ」

米 「ウヰルソン」
「ランシング」

英 「ロイド、ジョージ」
「バルフォア」

伊 「ソンニノ」

日 珍 田

松 井

一、議題

甲 代表權問題

(一) 代表權ノ有無

一、英領殖民地委員

漆太利「ニウジーランド」………一名

英領印度……………一名
其關係條項ニ關シ各委員ヲ出席セシム

印度土人國……………一名
英國ノ希望ニ基キ「ウヰルソン」本案ヲ提出セリ

二、露國委員……………未定

三、伯國委員……………三名

(露國問題討議ノ際ニ譲ル)
(伯國ニ蔓レル獨逸ノ勢力ヲ驅除シ之ト絶縁セシムル爲特ニ之ヲ許ス)

右「ウヰルソン」發案、英佛委員ノ議論アリタリ

- 四、「コスタリカ」……………委員出席ヲ許サス
- (同國現政府ハ人道ニ反シタル革命ニヨリ組織ナレンシノミナラス對獨宣戰代償ノ意味ニテ政府ノ承認ヲ求メタル
カ如キ陋劣ノ舉措アリタレハナリ)
- 右「ウヰルソン」發案

(二) 代表ノ態様

一、各國委員々數(大國五
小國二十一(斷交國四ヲ含ム))

(イ) 大國英、米、佛、伊、日……………各五名

A 特別利害關係アル國 「ブ拉斯ル」……………三名

B 小交戰國中 白、希、羅、塞

C 特別利害關係アル國 支那

D 新承認國 波蘭、「チエック、スローヴアック」

E 小交戰國 葡、暹

F 名義上ノ交戰國 玖馬、巴奈馬、「リベリア」「ガ

テマラ」「ニカラガ」「ハイチ」「ボンヂュラス」(各二名
葡國及暹國ハ各二名ニ改メラル)

G 外交斷絕國 「ボリビア」、祕魯、「ウルグー」、「エクワードル」

(ハ) 中立國及新造中ノ國……………各二名

二、委員ノ權限

(イ) 大國委員……………各會議及委員會ニ出席スル權利アリ

(ロ) 小國委員……………其ノ國ニ關係アル問題ノ討議ニ出席スル權利アリ

(ハ) 中立國及新造中ノ國ノ委員……………其ノ國ニ關係アル問題ニ限リ招請ニヨリ出席ス

(ニ) 敵國委員……………聯合國カ豫備條約ヲ決定シタル後ニ非サレハ出席セシメス

三、別ニ専門委員ヲ設ク

乙、討議事項問題

(一) 提案論議ノ狀況

「ウヰルソン」一、國際聯盟 二、損害補償 三、新興國 四、領土境界及其ノ協定 五、植民地問題等ヲ右ノ順序ニテ特別委員ノ審査ニ附シ其ノ結果ヲ可成速ニ本日ノ如キ會議ニ報告セシムコトヲ提議ス「クレマンソウ」速カニ講和本會議ヲ開キ之ニ於テ右ノ諸項ヲ講究セムト謂フ

「ソニニノ」本會議尙早論（彼等ノ間ニ相當ノ諒解ヲ得ラル迄）

(二) 議決（「ウヰルソン」「ロイド、ジョージ」ノ折衷案採用）

一、速ニ本會議ヲ開キ各問題ニ付講究ヲ進ムルコト

二、之ト同時ニ大問題ハ大國會議ニテ相談スルコト

附

(イ) 殊ニ露國問題、國際聯盟等ハ可成速ニ着手ス

(ロ) 別ニ利害關係ヲ有スルモノハ各其ノ主張ヲ書記局ニ提出スルコトトシ大國ハ其ノ主張ヲモ考量ニ入ルルコト

(三) 附帶申合

- 一、一月十五日次回ヲ開キ會議ノ規則ヲ議ス
- 二、一月十八日本會議ヲ開ク（佛國大統領及「クレマンソウ」氏ノ演說等アル旨）
- 三、各國委員ノ任命ヲ取急キ實行スルコト

○講和會議ニ關スル一月十五日第二次打合會

一、開催日時 千九百十九年一月十五日午前十時半

一、場所出席者 前回ニ同シ

一、議題

甲、講和會議開會中議事公表ニ關スル新聞紙取締方法

(イ) 討論動機 十三日ノ會議ニ於テ在獨逸帝國銀行金塊處分問題ノ如キ祕密事項ニシテ新聞紙ニ報道セラルゝモノ

アリタルニ因ル

(ロ) 討議中米國「ウヰルソン」大統領ヨリ講和本會議開會ニ當リ新聞記者ヲ出席セシムルコトノ提議アリタルモノ結果タル徒ニ敵國側ノ利用ニ終ルヘシトノ反對論有力ニシテ右「ウヰルソン」氏提案ハ否決セラレタリ

(ハ) 結局本問題ニ關シテハ講和會議中ノ佛國政府書記局ヨリ公表スルモノ以外ハ議事ヲ外部ニ發表セサルコトニ決議セリ

(ニ) 午後ノ會議ニ於テ取締ノ確實ヲ期スル爲ニハ各國ヨリ委員ヲ書記局ニ派シ共ニ檢閱ヲ行フノ外ナカルヘシトノ佛國委員ノ提案アリシカ「ウヰルソン」大統領ハ米國出發ノ際新聞紙ヲ檢閲セサルヘキノ約束ヲ無シタルニ付單ニ右趣旨ノ説論ヲ爲シ置カントノ意見ナリシカハ「ロイド、ジョージ」氏ハ斯クテハ他政府ノ嚴重ナル取締モ無效ニ終ル

ノ虞アリト反対セリ

本問題ハ當分ノ間右午前決議通(ハ)トシテ暫ク其ノ結果ヲ見ルコトニ決定セリ

乙、講和會議出席委員數ニ關スル佛國「ビション」外相ノ提議

(イ)、要旨

十三日決定後白耳義、葡萄牙、希臘、支那等ヨリ出席委員ハ二名トスルコト・シ他ノ諸交戦國ノ要求ハ之ヲ容レサルコト

(ロ)、決定

葡萄牙ハ實際戰爭ニ參加シタルモノニ付同國ノ委員ハ二名トスルコト・シ他ノ諸交戦國ノ要求ハ之ヲ容レサルコト

トス

丙、會議ノ用語ニ關スル件

(イ)、佛國「ビション」外相提議

從來ノ國際會議ノ用語タルノ理由ヲ以テ佛語ヲ以テ正式用語トスヘシ

(ロ)、米國「ウヰルソン」大統領英國「ロイド、ジョージ」首相提議

聯合國ノ大多數ガ英語ヲ使用シ居ルヲ以テ徒ラニ先例ヲ固守セス英語ヲモ正式用語トスヘシ

(ハ)、伊國「ソニニ」外相提議

伊國語ノ使用ヲ主張ス

(ニ)、其ノ他ノ諸説

「クレマンソウ」氏佛英伊三國語ヲ正式用語トナシ争ヒアル場合ニハ佛語ヲ以テ正文トスルノ折衷說ヲ出シタルニ對シ「ウヰルソン」大統領ハ伊國語ハ世界的ニ使用シ居ラレサル理由ヲ以テ之レヲ正式用語トスルニ反対シ「ロイド、ジョージ」氏モ伊國語ヲ加フルモ可ナルヘキカ争アル場合ニハ國際聯盟ノ決定ニ任スヘシトノ說ヲ出セリ

○講和ニ關スル一月十六日第三回打合會(十五日ノ續)

- 一、開催日時 一月十六日自午前十時半至正午
- 一、場所出席者 前回ニ同シ
- 一、議 題

甲、新聞紙取締方法

一、提案

○「クレマンソウ」、「紐育」トリピュン「カ巴里電報」トシテ「ウヰルソン」ハ在歐米國兵全部ヲ引揚ケシムヘシト威嚇シ居ル旨ノ記事ヲ掲ケタルヲ指摘シ斯カル荒唐無稽ノ報道ヲ取締リ殊ニ又甲國ノ主張ニ乙國カ反國シタリ等ノ記事ヲ禁止スル必要アリ右取締ハ各國共同シテナスヘシトシ其ノ方法ニ付誥ル所アリ

二、決定

此ノ日午後米佛伊國政府ノ新聞係員ニ於テ自國新聞記者ノ主ナル者ヲ呼寄セ會議ニ關シ無責任ナル記事ヲ掲載スルノ危険ヲ説示シ同時ニ新聞紙ニ出來得ル限り充分ノ報道ヲ供給シ度此ノ目的ヲ達スヘキ方法ニ付新聞者ノ意見ヲ徵スルコト

乙、暹羅國委員數

同國ノ抗議ニヨリ二名ト改ム

丙、露國問題討議

(二)

一、「ロイドショージ」英國ノ露國地方諸政府代表者ヲ招致スルノ案ニ對シ佛政府ノ反対ヲ報道セル「ユーマニテー」紙ノ記事ニ付英政府側ノ態度聲明

○要旨、右ハ英政府ニ於テ「ボルシエヴヰキ」其ノ他ノ露國地方政府代表者ヲ講和會議ニ參列セシメムトスルノ意ニ非ス露國ノ現狀不明ニシテ聯合國ノ出先官憲又ハ在聯合國露國政治家モ真狀ヲ報告セサルニ因リ露國各地ノ多少權力アル者ヲ會合シ親シク露國ノ真狀並彼等ノ意見ヲ聽取セムトスルモノナリ將又「ボルシエヴヰキ」ノ勢力ヲ鎮壓シ露國ノ慘狀ヲ終止セシメ平和ヲ招徠セシムルコト現下ノ急務ナリト雖兵力ニヨル討伐ハ「ボルシエヴヰキ」ノ蔓延セル今日其ノ成功覺束ナク經濟封鎖モ亦露國各地ノ聯絡不可能ノ爲實行シ難シ從テ其ノ速決ヲ容易ナラシムルカ爲前述意見聽取ノ提議ヲ爲セル次第ナリ

○「ウヰルソン」、大體ニ於テ右提議ニ賛意ヲ表シ米國トテモ此際多數ノ軍隊ヲ露國ニ送ル意ナシト述フ

二、決定

「ビション」氏ハ最近「アルカンブル」ヨリ歸佛セル佛國大使「ヌーランス」氏ヲ「バルフォア」氏ハ最近迄露都ニ止マリ居タル丁抹公使「スカベニウス」氏ヲ十七日ノ會議ニ招致シ其談話ヲ聽取スルコトヲ提議シ一同ノ賛成ヲ得タリ

○講和ニ關スル一月十七日第四次打合會(十六日ノ續)

- 一、開催日時 一月十七日自午前十時半至午後
一、會場出席者 前回ニ同シ

一、議題

甲、新聞記事取締問題(前日ノ續)

一、問題要旨、前日會議ノ決定ニ從ヒ十五日夕ヨリ各國委員ニ於テ自國新聞記者ヲ呼出しシ說得ヲ試ミ其ノ意見ヲ徵シタルニ米國記者ハ是非會議ニ出席シ詳細ニ會議ノ模様ヲ發表シ度旨主張シテ止マス如何ニスヘキヤ

二、議論

○「ロイドショージ」、「ソニニノ」、「ビション」、「バルフォア」等明日ヨリノ總會議ニ於テ例ヘハ國際聯盟問題ヲ議スルカ如キ場合ニハ新聞記者ヲ加ヘテ差支ナカルヘキモ五大國會議並特殊ノ問題ヲ決定スル爲大國委員ニ小國委員ヲ加ヘテ會議スル中會議ニ彼等ヲ參加セシムル時ハ敵國カ之ニヨリ議事ノ内容ヲ知悉シ又世評ノ爲思ヒ切リタル決定ヲナシ得サルニ至ルノ虞アルヲ以テ不可ナリ

○「ウヰルソン」、要スルニ議論ノ眼目ハ正確ナル報道ヲ世間ニ發表シテ誤報ヲ避ケントスルニアリ

三、決定

新聞記者ヲ或種ノ會議ニ出席セシムルコトトシ右ノ措置ニ出タル理由ハ篤ト之ヲ説明スルト同時ニ「デクラレーシヨン」ヲ作リテ之ヲ公表スルコト

乙、全權委員數問題

一、提議

A 白耳義ハ同國委員ヲ二名トスルノ決定ニハ承服シ得ス從テ明日ノ總會議ニ出席シ得ルヤ計リ難シト述フ

B 「セルビヤ」ハ同國カ多大ノ犠牲ヲ拂ヒ終始戰爭ニ參加シタル故委員數ヲ增加セラレ度旨要求ス

二、議論

○「ロイド、ジョージ」白國ノ現戰爭ニ提供セル犠牲ハ左程多大ナラス、又委員數ハ國ノ大小、人口及重要ノ程度ニ依テ決スヘク白國ハ右ノ資格ニ缺クルノミナラス會議ノ既決事項ヲ變更スルハ面白カラス

○「クレマンソウ」、今朝 Hediez (「メツカ」「メヂナ」) 中心トスル「アラビア」地方) 王國ヨリ二名ノ委員ヲ出スコト
トナレル行懸モアレハ白、塞兩國ノ希望ヲ入レタシ

○「ソニノ」、今後「ユーロースラブ」ヨリモ代表者ヲ出スコトトナラハ「セルビア」ハ合計四人トナル故多キニ過ク
三、決定

白、塞兩國ヨリ各二名ノ委員ヲ參列セシムルコトトシ今後増員問題ヲ取扱ハサルコト
丙、十八日本會議ノ議題問題

一、提議(ビション)

一月十三日ノ「ウヰルソン」案ニ從ヒ

- 1 國際聯盟
 - 2 損害補償
 - 3 新興國
 - 4 領土境界及其協定
 - 5 植民地問題
- ノ諸問題ヲ基礎トシテ明日ノ本會議ヲ開キタシ

二、議論

- 「バルフォア」、國際聯盟ノ如キ各國ニ關係アルモノハ可ナルヘキモ其他ノ問題ハ隨分「デリケート」ナルヲ以テ明
白ノ會議ニ提出スルハ如何アルヘキヤ
- 「ウヰルソン」、「ロイド、ジョージ」兩氏モ意見ヲ述フ

三、決定

A 議題トシテ

國際聯盟

戰爭ノ責任

國際公法違反ノ罪ニ對スル制裁

労働ニ關スル國際法制

等ノ問題ヲ提出シ此等問題ニ對シ各國委員ヨリ各自國ノ關スル其ノ意見ヲ書記局ニ差出シ議長ニ於テ之ヲ五大國
會議ニ附議スルコト

B 各國委員ヨリ新ナル問題ヲ提議セムトスル場合ニハ之ヲ書附トナシテ提出シ議長ハ五大國ニ相談ノ上其ノ採否
ヲ決スルコト

C 對新聞記者問題

一、新聞記者ニ對スル説諭的宣言文附議決定セラル

二、十八日ノ會議ニハ新聞記者十五人ヲ限リ出席ヲ許シ其ノ人選ハ「ハウス」ニ一任スルコト

○一月十八日第一回聯合與國總會議

一、日 時 一月十八日午後三時開會 閉會時電報脫字

一、場 所 佛國外務省時計ノ間

一、出席者 對敵斷交諸國ヲモ含ム各國ノ全權委員隨員モ適宜臨席、新聞記者等モ多數隣ノ間ニ見受ケタリ

甲、「ボアンカレー」氏開會ノ辭

聯合各國カ正義人道ノ爲ニ戰ヒタル功績ヲ稱揚シ講和ニ於テモ又其ノ後ニ於テモ引續キ相提携セムコトヲ希望スルノ主旨ヲ以テス右畢リテ同氏ハ直チニ退場シタリ

乙、議長ノ選舉

(イ) 「ウイルソン」大統領「クレマンソー」氏推舉

右推舉ノ理由ハ從來列國會議ノ慣例ナルカ上ニ大國タル佛國民ニ對スル敬意ヲ表彰スル所以ニシテ且又偉人タル同氏ヲ以テ最適當トスルカ故ナリト說明ス

(ロ) 「ロイド、デヨーデ」氏ノ右提議賛同

且更ニ附加シテ曰ク同氏ヲ議長タラシムルコトハ世界人數ノ熱望スル平和ヲ一層速ニ誘致スル所以ナリト

(ハ) 「ソンニノ」氏ノ贊成

右ニテ「クレマンソー」氏滿場一致ニテ議長ニ選舉セラル

丙、副議長ノ選舉、書記局起草委員全權委任狀審查委員ノ構成及議事規則ノ議了

丁、議事日程

一、現戰爭ノ責任

二、戰爭中行ヒタル罪惡ニ對スル責任

三、勞動ニ關スル國際法制

以上ニ關シテハ各國ヨリ意見書ヲ書記局ニ提出シ尙自國ノ利害ニ關スル限り財政經濟等ノ諸問題ニ關シテモ同様意見書ヲ書記局ニ提出スルコトニ決定セリ

○左ニ各國委員數(確定ノ分)ヲ爲參考掲出ス

各國委員數

A 事實上ノ交戰國

一、英米佛伊日……………各五名

英領植民地委員

イ、濱太利「ニウジーランド」其ノ關係條項ニ關シ各一名

ロ、英領印度

ハ、印度土人國

二、「ブラジル」、白、塞……………各三名

三、希、羅、葡、暹、支那、波蘭「チエツク、スローヴァツク」…………各二名

B 名義上ノ交戰國

玖馬、巴奈馬、「リベリア」「ガテマラ」……………各一名

「ニカラガ」「ハイチ」「ホンジュラス」……………各一名

C 外交斷絕國

「ボリビア」、祕露、「ウルグエー」

「エクアドール」

D 中立國及新造中ノ國……………各一名

○講和會議役員決定(一月十八日)

一、議長「クレマンソウ」

二、副議長 「ランシング」「ロイドジョージ」「オーランド」西園寺侯

三、委任状審査委員…………五大國ヨリ各一人

日本 松井大使

四、起草委員……………右ニ同シ

日本

長岡參事官

五、書記局……………右ニ同シ

日本 佐分利書記官

○講和ニ關スル一月二十日第五次打合會

一、開催日時 一月二十日午前十時半ヨリ

一、日本側出席者 牧野男、松井大使

一、内容 前在露佛國大使「ヌーランス」氏ノ露國現狀ニ關スル意見

(1) 過激派政府ノ暴狀

一、「プラウダ」紙ハ勞農者ニハ利益保護ノ爲ニ武器携帶ヲ許可スルモ有產者ニシテ武器ヲ携帶セハ殺戮セラル旨發表セリ

二、「トロツキー」ハ昨年一月兇暴制度ヲ行フノ必要上拷問ヲ爲スヘシト宣言セリ

三、資本家等ニ對シ一切ノ「ソビエット」選舉資格ヲ禁ス

四、有產者ノ新聞發行ヲ禁ス

(2) 「ボルシエウヰキ」所屬赤軍數

五、「エカテリンブルク」等ニハ掠奪殺戮強姦等行ハレ露國人ノミナラス英佛等ノ外國人ニ對シヲモ同様ナリ

六、過激派政府ハ外ニ對シテハ極端ナル「イムベリアリスト」ニシテ反民主々義者ナリ

以上ノ説明ニ續キ同大使ハ斯カル非義非人道ノ政府ト聯合國政府カ關係ヲ開始スルノ不都合ナルハ勿論之カ開始ノ結果ハ聯合國內ニ休戦後獨逸カ現ニ苦ミ居ルカ如キ「ボルシエウヰキ」ノ「プロバガンダ」ヲ見ルヘシトノ意見ヲ附加シタリ

(3) 要スルニ同大使ノ演説ハ「ウヰルソン」大統領始メ列席者ニ左程ノ印象ヲ與ヘサリシカ如シ

○講和ニ關スル一月二十一日第六次打合會

一、開催日時 一月二十一日自午前十時半至午後

一、場所及出席者 前回ニ同シ

一、内容

甲、前駐露丁抹公使「スカベニウス」氏ノ露國談

(客年十二月十五日露都發最近巴里着)

一、露國過激派側近狀

露國過激派ニ對シテハ工業勞働者ヲ除キ國民一般ノ同情ナシ三十萬ト稱スル赤衛軍中ニハ飢餓ニ迫ラレテ參加セルモノ多シ

二、露國內對過激派兵力

赤衛軍ニ對抗スル兵力ハ「デニキン」ノ兵「クラスノフ」ノ兵及在西比利亞「チエツク」兵ヲ合セテ事實十五萬ニ過キス

三、露國政黨關係近況

革命當初謳歌セラレシ社會革命黨ハ聲望ヲ失ヒ今日ハ急進共和黨優勢ニシテ「コルチャク」「ナビンコフ」等モ之ニ屬ス、目的ハ帝政復興ニハアラサレドモ有名無實ナル王黨ト妥協シテ過激派ニ反対シ居レリ

四、對露兵力干涉ニ關スル意見

露國救濟ノ爲兵力干涉ヲ爲サムトセハ先ツ「ペトログラード」及莫斯科ヲ占領スヘシ莫斯科一度陷レハ意見ヲ異ニスル各黨派モ舉ヶテ過激派討伐ニ加ハラム但シ聯合軍ノ援助ナクハ露人ハ自ラ討伐ヲ敢テセサルヘク援軍ハ約十萬ニテ足ルヘシ然レトモ糧食不足等ノ困難ヲ伴フコトハ免レス

五、過激派ノ最近動靜

過激派ハ既ニ聯合軍ニ對シテ宣戰シ居リ獨、佛、英、印度等ニハ「プロバガンダ」ヲ試ミツツアリ獨國ニテハ過激派成功ノ見込アリ

乙、對露策討議

(一)、露國各派代表者ヲ「サロニカ」へ招致スルノ說
(ウヰルソン提出)

イ、要旨、過激派從來ノ態度ニハ不滿ナルモ英國提案ノ如ク其ノ代表者ノ話ヲ聽クコトハ一策ナリ

兵力干涉ニ出ツルトキハ之ヲ以テ聯合與國ハ帝國主義資本主義ノ政府ニ加擔スルモノトシ過激派ヲシテ對抗ノ口實ヲ得セシムルコトトナルヘシ

彼等ヲ招致スルコトハ不可ナキモ巴里以外ノ場所例ヘハ「サロニカ」ニ招クコトトシタシ

ロ、「クレマンソウ」ノ反對

招致案ニハ主義ニ於テ不贊成ナルモ過激派ノ勢猖獗ナル今日聯合國ハ露國政派ノ何レヲモ援助スルコトナキヲ約スルト同時ニ露國民ニ自ラ改善スルノ必要ヲ説キ各派ヲ糾合セシムル方法ヲ講セン

ハ、本件ニ關スル諸意見

「バルフォア」ハ過激流ハ來會セサルヘシト云ヒ「ソニニノ」ハ之ヲ否認シ且過激派ノ將來ニ於ケル「プロバガンダ」カ伊ニ禍スヘキヲ述ヘ「ロイドジョージ」ハ過激派殲滅ノ爲ニハ四五十萬ノ兵ヲ要スルモ此ノ策ニ出テナハ英兵ハ反亂セント云々ト述ヘ「ウヰルソン」案大體ニ於テ一同ノ賛同ヲ得タリ

ニ、次テ牧野男ハ「ウヰルソン」ヨリ意見ヲ求メラレタレハ「ウ」氏案ニ贊意ヲ表シ唯過激派カ飽迄其ノ憲法上ノ主張ヲ固守スルトキハ聯合國代表者ハ誤解ヲ招カサル様應對ニ注意ヲ要ス又貝加爾以東ハ日本軍出征以來靜穩ナリト述

フ

ホ、「ウヰルソン」ハ露國代表者ト會見セシムヘキ聯合側代表者ハ直チニ何等決定ヲ採ラス一應報告ヲ爲サシムルコトトスヘク之ニ對シ豫メ訓令ヲ與フルコトトスヘシト述フ

(二)、露國ヘ食糧供給ノ說(「クレマンソウ」提出)

イ、要旨、露國ハ目下饑饉ナルニ付其ノ代表者ヲシテ招キニ應シ又統一ヲ保タシムルノ方法トシテ食糧ヲ供給シテ内証ヲ終止セシムルコトヲ勸告スヘシ

ロ、「ロイドジョージ」反對

食糧ハ聯合國ニ餘裕無之濫ニ之ヲ輸出セハ却テ我方ニ過激派的思想ヲ誘發スルコトナラン

露國ハ從來農產物輸出國ニシテ「ウクライナ」ノ如キ食糧不足ナシ結局輸送問題ニ歸着スヘシ（「ウヰルソン」モ之ニ賛成ス）

(三)、「バルフォア」ハ露國各派ニ對シ内訌ヲ終熄スヘキ旨申入ルヲ可トシ結局過激派ニ對シ申送ルヘキ文書ヲ「ウヰルソン」ニ於テ作製スルコトニ決ス

(四)、二十二日午前ヨリ開會對露方針ヲ決定シ引續キ一、國際聯盟、二、賠償問題、三、勞働問題ノ大體ニ付議事ヲ進ムルコトニ協議調フ

○講和ニ關スル一月二十二日第七次打合會

一、日時、一月二十二日自午前十一時至午後五時

一、場所及出席者、前回ニ同シ

一、內容、

甲、波蘭問題討議

一、波蘭首相「バデレフスキ」ヨリ「ウヰルソン」宛一月十二日附書翰内容ノ披露アリ要旨次ノ如シ

波蘭ハ「ボルシェウヰキ」「ウクライナ」等ノ壓迫脅威ヲ受ケ居ルモ其ノ侵入ヲ阻止スル能ハス故ニ聯合國カ「ウクライナ」ニ其ノ戰爭行為ノ終止ヲ勸告スルト共ニ波蘭補給委員ヲ派遣セラレ且波蘭ノ最モ窮乏セル兵器彈薬ノ供給ヲ諾セラレンコトヲ切望ス云々

二、右ニ關シ「フォツシユ」將軍ノ出席ヲ求メ其ノ意見ヲ徵ス將軍ノ意見大要次ノ如シ

在佛伊波蘭兵ニシテ本國ニ廻送シ得ヘキモノ約三師團（其ノ中即時出發シ得ルモノハ一師團ナリ）アルモ波蘭人ノ希

望ハ右軍隊ノ歸還ニ先ナ聯合軍ノ來援ニ依リ「ダンチツヒ」「トルン」間ヲ占領セントスルニアルカ如シ之ニハ聯合軍二師團ヲ要スルモ右來援ニハ目下波蘭ト領土上ノ紛争中ニアル獨逸ノ強硬ナル反對アルヘク故ニ「ボルシェウヰキ」ニ對シ波蘭自身ノ執ルヘキ防禦手段ハ兎モ角其ノ他ノ點ニ付テハ先ツ聯合國ノ對波蘭政策ヲ定メ波蘭ヲシテ之ヲ承諾實行スル所アラシメ同時ニ聯合軍派遣ノ準備ヲ調フルコトトセン云々

三、論議

○「バルフォア」ハ波蘭政策ノ確定ハ講和會議ニ於テ爲サルヘキモノニシテ俄ニ決定シ難ケレハ此際兎モ角モ其ノ内爭ヲ止メシムルコトトシ其ノ間佛軍派遣ヲ準備セシメ英國之カ輸送ノ工夫ヲ講シ英佛協同シテ救援ヲ計ラント述ヘ○「ウヰルソン」ハ聯合軍派遣ハ獨逸人之ヲ喜ハス聯合側カ波蘭政策ヲ定メ波蘭ヲシテ之ヲ承諾セシムルコトモ困難ナリ（「ロイドジョージ」ハ波蘭カ自ラ救援ヲ求メ來リタルモノナルノ故ヲ以テ此ノ點ニ反對シタリ）一方二十一日ノ會議ニ於テ露國各派ニ對シ其ノ鬭争ヲ中止スヘキヲ勸告スルコトナリ居ルヲ以テ「ボルシェウヰキ」ヨリ來ル危險亦終熄シ從テ派兵ノ必要モ無キニ至ルヘシ唯波蘭ニ武器ノ供給ヲナスハ別ニ差支ナカルヘシト云ビ

○「フォツシユ」將軍ハ波蘭軍隊人員ノ素質ヲ糺ナシテ兵器彈薬ノ供給ヲ爲スモ其ノ效果如何ト述ヘ且波蘭カ我ニ救護ヲ求ムルニ付正當理由アルコトヲ力説セリ

四、以上ノ論議アリタル米大勢ハ派兵等ニ關シ消極説ニ傾キ唯各國委員ハ「クレマンソウ」ノ提議ニ基キ「バデレフスキ」ノ求ムル經濟委員ヲ派遣スルコトヲ承認セリ然レトモ帝國全權委員ハ之ヲ斷リタリ

乙、露國各團體代表者召集狀決議

露國內各團體内訌休止ノ爲右各團體代表者召集ノ件ニ關シ「ウヰルソン」ハ彼等ニ送ルヘキ文書ヲ朗讀シ會議ハ之ヲ議決シタリ其要旨次ノ如シ（全文ハ本日ノ記事ノ末尾ニアリ）

聯合國對露方針ハ露國人民ノ救濟ヲ以テ唯一ノ目的トス露國人ノ困難愈々加ハリ其ノ亂レタル秩序ヲ恢復スルニ非

サレハ露國ノ救濟ハ不可能ナルニ依リ聯合國代表者ハ秩序ノ確立ノ方法ヲ審議中ナリ但シ露國人カ自ラ自己ノ問題ヲ處理スルノ絶對的權利ヲ犯スモノニ非ス又露國ニ對シ各自國ノ利益ヲ計ルモノニモ非ス右代表者ハ露國ノ革命ヲ承認シ反革命的企圖ヲ支持セサルト共ニ現在ノ露國諸政治團體ノ何れニ對シテモ特惠ヲ施スモノニ非ス

露國ニシテ平靜ナラスハ世界ノ康寧ハ維持シ難キニヨリ全世界ノ平和確立ニ盡力シツ、アル聯盟國ハ寛大無私以フ露國ヲ助クルコトヲ其ノ義務ト認メ露人ノ最モ希望スル方法ニ於テ此ノ義務ヲ遂行セム依テ聯合國ハ西比利亞又ハ歐露（芬蘭ヲ除ク）ノ政治又ハ軍事的團體ヨリ三人以下ノ代表者ヲ二月十五日迄ニ「マルマラ」海上「プリンセス」島ニ招請ス聯合國代表者ハ右諸團體カ互ニ休戰シ且戦前ノ歐露境域外ニ差向ケタル一切ノ軍隊ヲ撤退スルコトヲ條件トシテ其ノ代表者ト會合スヘシ

右會合ノ目的ハ露國人各方面ノ希望ヲ確メ且出來得ヘンハ露國カ自國ノ企圖ヲ成就シ他國民トノ間ニ幸福ナル協同的關係ヲ確立シ得ルカ如キ了解又ハ協定ヲ設クル目的ヲ以テ聯合國代表者ト協議スルニ在リ云々

丙、國際聯盟問題

一、國際聯盟ノ準備決議タル協約案決定

「ロイド・ジョージ」ハ左ノ如キ決議案ヲ提出シ各國全權委員之ニ同意シ二十五日ノ總會議ニ於テ之ヲ附議スルコトニ決ス

「會議ハ國際聯盟ヲ組織スルノ提案ヲ考察シ茲ニ左ノ通決議ス

（イ）聯盟諸國茲ニ會同シテ世界ノ爭議ヲ解決シ其ノ平和ヲ維持セムト欲スルノ目的ニ對シ絶對ニ必要ナルハ國際聯盟ヲ組織シ以テ國家間ノ協同ヲ高メ其ノ承認セル義務ノ履行ヲ確保シ其ノ義務違反ニ對スル保障ヲ設クルニ在リ

（ロ）右國際聯盟ハ一般平和條約ノ構成分子トシテ之ヲ組織シ苟クモ此ノ目的ノ達成ニ資スル以上ハ如何ナル文明講和條約ノ一部分ト爲ス儀ニ付テモ同様ノ留保ヲ爲スヘキ旨ヲ述ヘタルニ

二、帝國委員ノ留保

國ニ對シテモ自由ニ之ニ加盟セシムヘシ

（ハ）國際聯盟ノ加入國ハ時期ヲ定メテ國際會議ヲ開キ一定ノ常設組織及事務局ヲ設ケテ休會中聯盟ニ關スル事務ヲ掌ラシムルヘシ

會議ハ右聯盟ノ組織權限ニ關スル細則ヲ議定スルカ爲各聯盟國政府ヨリ其ノ代表者ヲ出シ之ヲ以テ委員會ヲ組織セシム

（イ）牧野委員 日本ハ誠實ニ國際聯盟ノ精神ニ協力セムト欲スルモノナルカ如何セム國遠クシテ事情充分通セス末タ充分之ヲ研究スルノ時日ヲ有セス確定ノ意見ヲ述ルニ由ナク又我政府ニ於テモ本問題ヲ攻究シ其ノ義務責任ヲ充分解得セラレタル上決定スルコトヲ希望スルモノト信スルヲ以テ本問題ヲ委員會ニ移スニ當リ原案ニ含メル主義モ亦未定ノモノトシテ之ニ附託スル諒解ナレハ自分ニ取リテハ好都合ナリトノ留保ヲナシ尙國際聯盟ヲ一般講和條約ノ一部分ト爲ス儀ニ付テモ同様ノ留保ヲ爲スヘキ旨ヲ述ヘタルニ

（ロ）「ウヰルソン」日本政府ハ我カ十四箇條ヲ承諾シ休戰條約ノ際之ヲ商議ノ基礎トスルコトニ同意セシニアラセヤト反問シ

- （ハ）松井委員 其ノ點ハ異存ナキモ當時何分右ニ就テハ詳細ナル説明ヲ聽クヲ得サリシト述ヘ
- （ニ）「ロイド・ジョージ」然ラハ更ニ本件問題ヲ委員會ノ研究ニ附スルコトニ異議ナキヤト問ヒ
- （ホ）牧野委員 何等異議ナキノミナラス喜ンテ協力スヘシト應シ
- （ヘ）「ロイド・ジョージ」牧野男ノ立場ヲ諒トセリ
- （ト）「クレマンソウ」本件ヲ公開シタキ希望ナリヤト質問シ
- （チ）牧野委員 素ヨリ祕密ニ附スヘキモノト思考スル旨答ヘ

(一) 「クレマンソウ」其の他出席議員同意
 (二) 本問題ニ對スル松井大使ノ意見

(イ) 英、米、佛間ニハ大體ニ於テ既ニ相談纏マリ居ルモノト認メラル

(ロ) 委員會議ハ「ウヰルソン」カ「セシル」「スマット」「ブルジョア」等ノ起草セル各案ヲ折衷シテ別ニ一案ヲ作製シタルモノヲ原案トシテ提出スルコトトナレリ

(ハ) 「ウヰルソン」ハ歸米前大體ヲ決定シ度キ希望ナルヲ以テ委員會ハ迅速ニ開會セラルヘク從テ議事ハ意外ニ早ク抄取ルヘシ

(ニ) 従來本問題ヲ非議シ或ハ成立上ノ故障ニ重キヲ置キ之ヲ輕視セル諸國モ國際間ノ大勢ニ徴シ最早ヤ其ノ成立ヲ疑フコト能ハサルニ至レリ

(ホ) 日本モ委員會ニ於テ原案ヲ見タル上帝國ノ利害ニ顧ミ相當ノ措置ヲ講スルノ外ナカルヘシ

三、國際聯盟委員ノ任命

大國ハ各委員二名宛小國ハ其ノ全體ヨリ都合五名ノ委員ヲ選擇スルコトトセリ
 丁、以上ノ外萬國勞働法制各國ニ對スル戰爭ノ損害賠償問題等ノ委員任命ニ關シ意見交換ヲナセリ

参考

露國諸團體代表者召集狀全文

聯盟諸國ノ代表者カ露國ニ關シテ採ルヘキ方針ヲ討議スルニ當リ各自懷抱セル唯一ノ目的ハ露國人民ノ救濟ニアリ露國人

カ自己ノ問題ヲ自カラ處理セムトスルニ際シ何等之ヲ阻止シ又ハ之ニ干渉セムトスルモノニアラス右代表者ハ露國人ヲ以テ其友人ト認ムルモノニシテ決シテ之ヲ敵視スルモノニアラス從テ彼等ノ希望スル處ニ從ヒ進ンテ之ヲ救助セムトスルモノナリ將來露國人ノ困難及悲痛ハ漸次增加シ飢餓並各種ノ窮乏ハ愈々急ニシテ愈々各地ニ傳播シ秩序回復シ勞働商業運輸狀況等常態ニ復歸セラルニ非ンハ之ヲ救濟スルコト益々不可能トナルコト明瞭ナルニ付右各國代表者ニ於テハ露國人ヲ援助シ秩序ヲ確立セシムヘキ方法ニ關シ審議ヲ凝ラシ居ル次第ナリ右代表者ハ露國人カ何等外部ヨリノ指揮命令ヲ待タス自ラ自己ノ問題ヲ處理スル絕對的權利ヲ有スルコトヲ認ムルモノニシテ自己ノ利益ノ爲メ何等露國ノ開發ヲ計リ又ハ之ヲ利用セムト欲スルモノニアラス聯盟國代表者ハ何等ノ留保ヲ存セス革命ヲ承認シ如何ナル方法ニ於テモ又如何ナル事情ノ下ニ於テモ反革命ノ企圖ヲ援助シ或ハ支持スルコトアラサルヘク同時ニ現時露國ニ於テ指揮者ノ地位ヲ得ントシテ互ニ争ヒツ・アル組織的團體ノ何レニ對シテモ特ニ之レニ好遇ヲ與ヘ或ハ特ニ之レヲ援助セントスル希望モ意圖モ有スルモノニ非ス聯盟國代表者ハ露國內平和ヲ克復シ同國ヲシテ現在ノ紛糾ヨリ脱却スルノ機會ヲ得セシメムカ爲誠意最大ノ努力ヲ爲サントスルモノナリ聯盟國ハ今ヤ歐洲否全世界ノ平和確立ノ神聖ニシテ而カモ責任アル事業ニ從事シ居ル次第ナルカ露國ニシテ靜穩ナラズハ歐洲並全世界モ亦到底其ノ康寧ヲ維持シ能ハサルコトハ一同ノ深ク了悉スル處ナリ依テ聯盟國ハ期カ爾重大事件ニ關シテハ各友邦並盟邦ニ對スルト同様寛大無私且思慮ヲ盡シ快ク露國ヲ援助スルコトハ其ノ義務ナリト認メ露國人ノ最も希望スル方法ニ於テ此ノ義務ヲ遂行セント欲ス

此ノ精神此ノ目的ヲ以テ聯盟國代表者ハ左記ノ措置ヲ執リタリ即チ西比利亞或ハ今回終了ノ戰爭以前歐羅巴第西亞境域内(芬蘭ヲ除ク)ニ於テ現ニ政治上ノ權力ヲ行使シ或ハ軍事上ノ管理ヲ實行シ又ハ之ヲ行使シ或ハ實行セント努力シツツアル一切ノ組織的團體カ各三名ヲ超過セサル代表者ヲ「マルモラ」海「グリンセス」島ニ送ランコトヲ招請セリ同時ニ右招請ヲ受ケタル團體間ニ於テハ休戦ヲ行ヒ戰前ノ歐露境域外ノ人民又ハ地域芬蘭或ハ現和平商議ノ基礎タル十四條條中ニ豫想セラレ居ル自治的運動ヲ爲シ居ル人民或ハ地域ニ對シ派遣シ或ハ差向ケラレタル一切ノ軍隊ヲ裁撤シ攻擊的ノ軍事行動ヲ終止

スルコトヲ條件トシテ聯盟國代表者ハ前記場所ニ於テ露國代表者ト會合スヘシ

聯盟國ハ露國人各方面ノ希望ヲ確メ且出來得ヘンハ露國カ自己ノ企圖ヲ成就シ世界ノ他國民トノ間ニ幸福ナル協同的關係ヲ確立シ得ルカ如キ了解或ハ協定ヲ設クル目的ヲ以テ最モ自由ニシテ且最モ公明ナル方法ニ於テ聯合國代表者ト協議スル爲メ茲ニ此等代表者ヲ招待シタル次第ニシテ右招待ニ對シテハ速答ヲ要求セリ此等代表者ノ旅行ニ對シテハ黒海ノ渡航ニ關シテモ聯合側ニ於テ一切ノ便宜ヲ供與スヘタ且關係各方面ニ於テモ相當便宜ヲ供與スルナルヘシ、該代表者ハ一九一九年二月十五日迄ニ指定ノ場所ニ到着センコトヲ期待ス

○講和ニ關スル一月二十三日第八次打合會

一、開催日時 一月二十三日自午前十時半至十二時

一、場所及出席者 前回ニ同シ

一、內容

第一

甲、敵國現有兵力ニ對シ遲滯ナク大削減ヲ加フノ件

乙、陸上並空中ノ兵力及武器ニ對スル負擔ヲ永久ニ減少スルノ案ヲ國際聯盟ト相關聯シテ準備スルノ件

(イ) 「ロイド、ジョージ」右二件ニ關シ五大國ヨリ各二人其ノ他ヨリ都合五人ノ代表者ヨリ成ル委員會ヲ設定スルコトノ英國提案ニ付ハ(甲)ノ點ニ關シ敵ノ兵力ヲ現在ノ儘トシ之ニ對シ百七十四萬ノ軍隊ヲ保存スルハ聯合國側ノ困難トスル所ナリト説明シ

(ロ) 「クレマンソウ」本件ハ嘗テ議會ノ問題トモナリ旁ミ「フォオツシユ」將軍ニ對シ其ノ性質ニ鑑ミ何故休戰條約ニ

本件ニ關スル條件ヲ挿入シ置カサリシヤト聞紀シタルコトアリシカ其ノ當時同將軍ハ敵國ノ兵力削減ヲ監視スルノ方法ナキニ依ルト答ヘタルコトアリ又讐テ獨逸ノ最近ノ狀況ヲ見ルニ「リー・ブクネヒト」一派ノ破碎ナレタル結果再ヒ獨逸軍人派ノ威力激増シ現ニ兵ヲ波蘭方面ニ集中シツ、アリトノ情報アリ故ニ今日減兵ヲ論スルモ不可能ノコトナルヘシ但シ波蘭ニ關スル「ミツシヨン」ヘ獨逸ニ對シ攻勢ヲ取ラサル様訓令スヘシト述ヘ
(ハ) 「オルランド」、敵國ノ兵力削減ハ尤ノ儀ナルモ寧ロ休戰ニ關スル問題ニシテ講和問題ニアラス故ニ聯合軍ノ休戰委員ニ於テ研究スルヲ適當トスト
(ニ) 「ロイド、ジョージ」右ニ賛成シ
遂ニ「フォオツシユ」將軍等ノ意見ヲ徵スルニ決ス

第二 萬國勞働法制ニ關シ國際的見地ヨリスル勞働雇傭關係ノ調査

雇傭關係ニ關シ各國協同ノ行動ヲ執ルニ必要ナル國際的手段ノ討議並國際的協同又ハ其ノ指導ノ下ニ右ニ關スル調査報告ヲ繼續スヘク永久の方法ヲ見出ス爲ニ五大國ヨリ各一人其ノ他ノ國ヨリ都合五人ノ代表者ヨリ成ル委員會ヲ設クル案ハ多少意見交換ノ後決定ス

第三 敵國ヨリ支拂ヲ受クヘキ補償額

本件ニ關シ敵國ノ補償能力及補償方法並時期ヲ調査報告スル爲各國ヨリ各二人ヲ超エナル代表者及白耳義、希臘、塞爾比ノ三國ヨリ各二人ヲ超エナル代表者ヨリ成ル委員會ヲ設クルコトノ英國提案ハ直ニ採用セラレタリ

第四

甲、戰爭開始者ノ責任

乙、戰爭中敵國側ノ陸上海上並空中ニ關スル戰時國際法規並中立ニ對スル違反行爲ノ事實

丙、敵國軍隊中ノ特定人(軍司令部又ハ其ノ他ノ箇人ヲ含ム)ノ此等犯行ニ對スル責任ノ程度

丁、此等審査裁判ニ適當ナル機關ノ構成並手續

戊、之ニ關聯シ又ハ附隨シテ起ルヘキ事項又ハ委員會ニ於テ必要或ハ適當ト認ムヘキ各種ノ事項ニ付調査報告
右諸項ニ關シテハ大國ヨリ各二名小國全體ヨリ都合五名ノ代表者ヨリ成ル委員會設定ノ米國提案ハ可決セラレタリ
附

「クレマンソウ」ノ提議並之ニ對スル決定

「クレマンソウ」ハ今日ノ議事ハ右ニテ終結シタルモ領土ニ關スル問題ニ付何レノ領土ヨリ先ニスヘキカ討議ノ順序ヲ
定メ置クヘシト提議シ意見交換ノ結果免モ角

- (1) 領土ニ付要求アル國ハ十日以内ニ其ノ要求ヲ書記局ニ提出スルコト而シテ
- (2) 前顯四案ノ外國際聯盟ノ問題並國際河川鐵道ノ問題討議ノ爲來ル土曜日總會議ヲ開クコトトナレリ
- (3) 財政ニ關スル委員會ヲ開催スノ議出テタルモ次回會議ニ讓ルコトトナレリ

注意

我國ヨリハ珍田大使及落合公使ヲ國際聯盟委員會委員トシテ出席ノコトニ決ス

○講和ニ關スル一月二十四日第九次打合會

- 一、開催日時 一月二十四日自午前十時半
- 一、場所 前回ニ同シ
- 一、出席者 五大國委員ノ外

佛國

「フォオツシユ」（聯合軍總司令官）

「ウエガント」

「ルーショール」（工業復興大臣）

「ヘイグ」（英軍司令官）

「ウヰルソン」（參謀總長）

「チャーチル」（陸軍兼航空大臣）

米國

「アーリス」將軍

「バーシング」（米軍司令官）

伊國

「デアス」（伊軍司令官）

「ロビラン」（海軍中將）

一、內容

甲、獨逸兵削減問題ニ關スル最高軍事會議

(一) 佛「フォオツシユ」ノ報告、聯合側並敵國側現在戰鬪員概數

佛 八十萬

英 三十五萬

米 四十萬

合計 百七十七萬五千

獨逸 五十五、六師團

外ニ新兵約四十萬

(二) 英「ロイド、ジョージ」ノ主張 獨逸ハ「ボルシエウヰキ」及波蘭ニ對抗スル爲多少兵力ヲ要スヘキモ今尙復員ヲ断行セサルノ理由ナシ聞ク所ニ依レハ其ノ軍規弛廢シテ軍隊タルノ要ヲ爲サスト云フ如此軍隊ハ永ク存在セシメ置クノ要ナカルヘク少クトモ其ノ兵器ヲ奪ヒ又例之「エツセン」「ミュンデン」等ノ主ナル造兵廠ヲ占領スルノ要アリ

(三) 佛「フォツシユ」ノ主張 獨逸兵ハ一旦解散スルモ復歸容易ニシテ又兵器ノ剝奪困難ナリ尙獨逸ニハ復員義務ナシト主張スル者アリ旁聯合側現在ノ兵力ハ少クトモ三月末迄之ヲ持續スル要アリ

(四) 米「ワイルソン」大統領ノ意見 獨逸兵ヲ速ニ復員セシムルハ可ナルモ早キニ失スレハ國內ニ「ボルシエウヰキ」ヲ激増スル虞アリ寧ロ平和ノ促進ヲ計ラサルヘカラス

(五) 英「ロイド、ジョージ」ノ提議 永ク英兵ヲ現戦地ニ止ムルハ英國ノ國情之ヲ許サス故ニ獨軍ノ復員ヲ要求シ之ニ應セサルニ於テハ糧食及必需品ノ供給ヲ拒ミ且大砲ヲ取上グルコトシテハ如何

(六) 米「ブリス」ノ主張 米兵ヲ速ニ歸國セシムルハ船舶ノ關係上事實不可能ニシテ今夏迄ハ大部分ヲ止メ置クコトトナルヘク結局本問題ハ平和條約ト共ニ決定スルヲ至當ト存ス

(七) 米「バーシング」ノ主張 聯合陸軍ハ既ニ「ライン」地方ヲ又英艦隊ハ「バルチツク」諸港ヲ監視シ且多數ノ大砲ヲ押收セル今日獨軍ハ敢テ恐ルニ足ラサルヘシ

(八) 英「ヘーグ」ノ主張 獨軍ノ實力侮リ難ク完全ノ保障アル迄ハ聯合側現在ノ兵力ヲ維持スルノ要アリ

(九) 米「ウヰルソン」ノ同意 「ヘーグ」ノ主張ニ同意ス

(十) 英「ロイド、ジョージ」ノ反問 「エツセン」「ミュンデン」ノ工場ヲ破壊スルモ尙不充分ナリヤ

(十一) 佛「フォツシユ」ノ答辯 兵器廠ハ他地方ニモ在リ右兩所ノ破壊ニヲ足レリト思考セス

(十二) 佛「ルーショール」ノ意見 獨逸ノ造兵廠ハ主トシテ「ウエストファリヤ」地方ニ在リテ兩所ノ破壊ハ最^モ有效ナルヘシ

(十三) 伊「デアス」ノ主張 伊國ハ十三個師團ヲ復員シ現ニ三十八個師團ヲ有スル處塊國ニハ内亂ニ拘ハラス多數ノ義勇兵アリ速ニ彼等ヨリ其ノ兵器ヲ奪ヒ造兵材料ヲ押收セサルヘカラス

(十四) 佛「クレマンソウ」ノ提議 一ノ(脱)作製方

(十五) 英「ロイド、ジョージ」ノ陳述 軍隊復員ニ關スル諸將軍ノ意見ヲ徵スヘシ

(十六) 結局 「フォツシユ」「ルーショール」「チャーチル」「ブリス」「デアス」ヨリ成ル小委員會ニ於テ復員ニ關スル案ヲ考量スルコトトナレリ

乙、各國共通徽章制定ノ件

「フォツシユ」提議ニ基キ現戦争ニ關スル各國共通ノ徽章制定方異議ナク可決セラレタリ

丙、爭鬪休止ニ關スル提案

「ウヰルソン」大統領ハ近時波蘭塞爾比等歐洲小國政府強力ニ訴ヘ領土ヲ略セントスルモノアル處右ハ平和會議ノ議決ニ何等ノ影響ヲ與フルモノニアラス領土問題ハ總テ平和會議ニ於テ之ヲ決スヘキニ付速ニ爭鬪ヲ休熄スヘキ旨警告ノ要アリトテ警告案ヲ朗讀シ可決セラル

丁、波蘭派遣委員ノ件

一、委員ニ對スル訓令案 佛國側ニ於テ起草スルコトニ決ス

二、同行新聞通信員「ロイド、ジョージ」ハ新聞通信員ニ於テ同行ヲ希望スルモノアリ如何スヘキヤト提議シ談合ノ未各國一人宛ヲ許可スルコトニ決シ其人選等ハ當人等ニ一任スルコトトナレリ

「クレマンソウ」曰ク國際聯盟損害賠償損害回復ニ關シ委員設置ノ問題既ニ決定セルカ尙經濟財政委員ヲ設置シ多岐ニ互レル問題中ヨリ緊切事項ヲ査定スルノ任務ヲ與フルコトシテハ如何ト提議シ直ニ採用セラレタリ

己、獨逸殖民地問題

(一) 英「ロイド、ジョージ」ノ質問 殖民地不還附ニ付異存アリヤ

(二) 一同ノ答辯 異存ナシ

(三) 英「ロイドジョージ」然ラハ其ノ處分方法如何ノ問題ヲ生ス

1 之ヲ國際聯盟支配權ノ下ニ管理スヘシト云フ一案アリ 如此スル時ハ各國ノ爲ニ之ヲ利用シ且濫用ニ流ルルノ弊ナク獨領時代ノ如キ暴虐ノ行ハルル虞ナシ且不服アル者ハ國際聯盟ニ訴フルコトヲ得ヘシト云フニアリ乍然結果ヨリ見レハ英國ノ殖民地ニ於テ其ノ土地港灣ヲ他國ニ開放シ居ルト同様ナレハ選フ所ナカルヘシ

2 併合案 獨領西南阿弗利加ハ英領南阿ニ繫屬スルモノトシテ當然英領タラシムルヘク「ニューギニー」ニ對スル濠洲ノ要求モ亦之ヲ認ムヘキモノナリト云フニアリ

尙ホ委細ハ各殖民地代表者ノ意見ヲ聽キ度シ

(四) 濠洲首相「ヒュース」ノ意見

南太平洋ニ於テ「ニューギニー」「ビスマルク」諸島カ漸次獨逸ノ占有ニ歸シタル事實ヲ述ヘ「バブア」ノ如キハ濠洲ヲ距ル八〇哩ニシテ「ニュージランド」濠洲ノ距離一二〇哩ナルヨリ却テ近ク其ノ他多數ノ小島ハ島其ノモノハ價値少シト雖濠洲ニ對シ大ナル威嚇タリ之ヲ還附スヘカラサルハ勿論濠洲以外ノ所有ニ歸セシムルヲ許スコト能ハス國際聯盟ヲシテ管理セシムル說ノ如キハ濠洲國權以上ノ權力ヲ以テ濠洲ノ勢力ニ對抗セシメムトスルモノニシテ到底確固不變ナルヲ得サル國際的政策ニ倚頼シ自ラ安全ヲ計ルコトヲ怠ルコト能ハス

(五) 南阿國防大臣「スマツツ」ノ意見

獨領西南阿弗利加ニ於テ獨逸人カ土人ヲ虐待シ之ヲ絶滅ニ瀕セシメタル慘狀ヲ說キ英領南阿ト接續セル獨領南阿ハ當然英人及「ボーア」人ノ殖民ニ委スヘキモノナリ千九百十四年開戰當時南阿中立等ノ陰謀有リタルモ南阿ノ運命ハ中立ヲ許サヌ英本國ト生死ヲ俱ニスヘキモノナルヲ以テ自分及「ボタ」將軍モ大ニ決心シ遂ニ多大ノ人命資材ヲ費シテ獨逸領南阿ヲ占領セリ之カ保有ヲ確保スヘキハ當然ナリ

(六) 「ニュージランド」首相「マッセイ」ノ意見

獨逸カ南洋諸島ニ手ヲ延ヘ「サモア」ニ占據セルハ「ニュージランド」ニ取り大ナル威嚇ナリ又「ジョイント、アドミニストレーション」(共同統治)ハ到底良果ヲ齎シ難シ人口ノ割合ヨリ見テ多大ノ犠牲ヲ拂ヒタル「ニュージランド」ハ當然「サモア」ヲ英領トスルヲ主張スルモノナリ

(七) 加奈陀首相「ボーデン」ノ意見

別段言フヘキコトナキモ各殖民地首相ノ言ニ全然同意ス

(八) 結局 月曜日(二十七日)帝國委員ノ意見ヲ聽クコトニ決シテ散會ス

○一月廿五日第二回聯合與國總會議

一、日 時 一月二十五日自午後三時

一、會 場 前回ニ同シ

一、出席者 各國代表者

一、會議內容 國際聯盟問題

甲、國際聯盟ノ根本主義討議

四六

一、提議

○「タレマンソウ」先ツ一月二十二日ノ五國會議ニ於ナセル國際聯盟ニ關スル決議（同日ノ議事録参照）ヲ朗讀シ右聯盟ニ關スル根本主義ノ討議ヲ開クロトア宣ス

二、賛成演説

○「ウカルソン」ハ今ノ戰争ノ慘害、文明破壊ノ實狀ニ鑑ニ恒久平和ノ基礎ヲ確立レ人道ヲ擁護スル爲國際聯盟ノ必要ヲ唱道シ右聯盟カ今ノ會議ノ骨子ナリ云々トア

○「ロイドジョージ」「オルランド」「レオン」「ブルジョア」我ニ簡單ニ國際聯盟ノ必要ヲ熱心ニ論述レテ同意ヲ表ス

○次テ歐洲代表者「ヒュース」、支那代表者陳微禪、波蘭、白耳義、其他ノ小國ノ代表者交々本案賛成ノ演説ヲナセリ於是

乙、國際聯盟委員會設定（Commission of League of Nations）

一、提議

○「タレマンソウ」ハ本案研究ノ爲國際聯盟委員會ヲ設タルコト、右委員トシテ五大國ヨリ各二名其ノ他ノ國ヨリ合計五名ノ委員ヲ選定スルコトノ案ヲ提出シ

米國ヨリ「ウカルソン」「バウス」

英國ヨリ「セシル」「スマツツ」

佛國ヨリ「ブルジョア」「ラルマウド」

伊國ヨリ「オルランド」「シャロア」

日本ヨリ「珍田、落合」

ヲ出スヘキコトヲ通告シ他ノ諸國ニ於テモ直チニ五名ノ委員選定アリタキ旨ヲ詔リタリ

二、小國ノ不平

○白耳義ヲ初メ其ノ他ノ各小國ハ先ツ本會議ニ於ケル列國代表者ノ數カ大國小國ニヨリ差別アルニ對スル不平ヨリ延イテ委員會殊ニ國際聯盟委員會ニ對シ小國ノ委員ヲ出ササルノ公正ニ非ナルコトヲ論難スルモノ續出シタルカ○「タレマンソウ」ハ之ニ對シ各小國ノ要求ハ理ナキニ非ナレトモ各國ヲ悉ク満足セシムルニハ各國皆各委員會ニ代表者ヲ出スノ外ナシ然レトモ研究委員會ヲ此ノ如キ多數ヲ以テ組織セハ研究立案ヲ妨クルニ止マリ實際的ナラストテ稍壓迫的ニ此等ノ要求ヲ拒絶シ小國ノ利害關係ヨリスル意見ハ本會議ニ於テ委員會ノ討議ノ結果ニ付討議スル際十分表明シ得ベク又委員會ハ門戸ヲ開キ何時ニテモ委員以外ノ列國ノ代表者ノ意見ヲ聽クニ容ナラズ宜シク其ノ意見ヲ事務局ニ提出シ委員會ニ通告セハ可ナラントテ其ノ不平ノ理ナキヲ説服シ五國會議ノ決議ノ貫徹ヲ圖リ稍強制的ニ議事ヲ進行セシメタリ

丙、國際聯盟財政部ニ對スル案

○講和ニ關スル一月二十七日第十次打合會

一、日 時 一月二十七日自午前十時半至午後五時

一、議 題 （午前ノ分）

甲、小國會議々長決定

○「タレマンソウ」氏ハ第二回總會議ノ結果本日午後開カル、コト、ナレル小國會議ノ議長トシテ「カンボン」氏（佛國外

務省書記官長ヲ推薦シ多少ノ異論アリタルモ結局可決セリ

乙、海法改正委員等設置ノ議

一、提議、船舶及貨物ノ損害並開戦當時中立國ニ在リタル獨逸船舶ノ問題ヲ調査シ且海法改正ニ關スル意見ヲ出サシムル爲委員ヲ設クヘシ

二、否決、海法改正ハ講和條約ト引離シ別ニ研究スルコト可ナルヘク又船舶貨物等ノ問題ハ賠償委員ニ於テ調査スルコト妥當ナルヘシトノ說出テ本提議ハ成立セス

丙、「プリンス」島會見ニ羅馬尼ヨリ委員派遣ノ質問

羅馬尼首相「ラシアン」ヨリ「ベッサラビア」ノ關係上同國ヨリモ「マルモラ」海ノ「プリンセス」島會見ニ委員ヲ派遣スヘキヤ否ヤフ「ビション」氏ニ質問シ來レルカ右ハ關係者自ラ決スヘキ問題ニシテ特ニ回答スルノ要ナカルヘク且「ベッサラビヤ」ハ必シモ羅馬尼ノ領土ナリタル譯ニモ非ストノ理由ニテ右質問ハ其ノ儘ニ差措クコトナレリ

丁、芬蘭獨立承認問題

○「ビンヨン」、佛國ハ右獨立ニ關シ既ニ承認ヲ與ヘ英國モ亦事實上承認シタルニ拘ラス其ノ後獨逸王族推戴ノ議アリ承認問題モ一時立消ノ姿トナリ居ル所此際「マンネルハイム」將軍ノ政府ニ承認ヲ與ヘスムハ同國ノ治安モ永續シ難カルヘシ

○「ソンニノ」、本問題ハ露國問題ト關聯スル所多キヲ以テ引離シテ決定シ難シ

○「ウイルソン」、「ソンニノ」說ニ賛ス

○結局何等決定ヲ見ス

戊、獨領殖民地問題

一、「バルフォア」氏ハ一月二十四日ノ五大國會議ニ於テ獨逸殖民地問題ニ關シ英國自治領ノ意見ヲ徵シタル儘ニテ恰

カモ證人ヲ法廷ニ召喚シ居ル姿ニナリ居ル處會議規則ニ依レハ英領殖民地委員モ他ノ伯刺西爾、白耳義、支那等ノ各委員等ト同シク其ノ利害ニ關スル議ニ參與スルコトヲ得ルニ付本日モ右ニ關シ討議ヲ繼續シタシ然シ本問題ハ自カラ日本ニモ關係アリ日本ノ要求ハ太平洋獨領諸島及膠州灣ノ二問題ニ分カレ居リ後者ハ隨分複雜ナルニ付本日ハ太平洋問題丈ヶ討議スルコト、爲シ得ヘキヤト尋ねタルニ付

二、牧野委員ハ日本ノ要求全體ニ付一應陳述スルコトニ致シタシト述ヘタルニ

三、「バルフォア」氏ハ前記會議ノ規則ニ依リ本件陳述ノ際ニハ支那側代表者ニ出席ヲ許サルヲ得ス其レニハ異議ナカルヘキヤト謂ヘルニ付

四、牧野委員ハ異議ナシト答ヘ

五、結局本日午後ノ會議ニハ日本全體ノ要求ニ付陳述シ次テ太平洋問題ニ付討議ヲ開キ支那ニ關係アル問題ニ付ヲハ支那委員ヲ出席セシムルコトニ決定セリ

己、右ノ外經濟委員ノ件其ノ他ノ問題ニ付多少ノ討議アリタリ

議題（午後ノ分）

獨逸殖民地問題

（一）出席者

例會出席者ノ外

イ 漢洲「ヒュース」、南阿「ボタ」、加奈陀「ボルデン」、新西蘭「マツセイ」

ロ 支那、王正廷、顧維鈞

（二）內容

一、帝國ノ要求宣明

○獨領ニ對スル日本政府ノ要求

日本政府ハ獨逸政府ヨリ

甲、膠州灣租借地並山東省ニ於テ獨逸ノ有スル鐵道及其ノ他ノ權利

乙、太平洋赤道以北ニ於ケル獨逸領諸島並開戰當時之等地域ニ於テ獨逸人ノ有セシ一切ノ權利及財產

ノ無條件讓渡ヲ要求スルノ正當ナルヲ信ス

抑モ膠州灣ニ於ケル獨逸陸海軍根據地ハ國際商業及海運業等ヲ脅迫セルコト不少之レカ爲極東ニ於ケル一般的平和危殆ニ瀕スルニ至レリ依テ日本政府ハ一千九百十一年ノ條約ノ規定ニ從ヒ英國政府ト協議ノ上獨逸政府ニ對シ膠州灣借地ヲ結局支那ニ返還スルノ目的ヲ以テ其ノ引渡ヲ要求シタリ然ルニ獨逸政府ハ所定時限内ニ回答ヲ爲サヌ日本ハ遂ニ武力ニ訴ヘ獨逸根據地略取ノ方針ヲ執ルノ止ムナキニ至レリ

日本軍隊ハ英國部隊ト協力ノ上該租借地並獨逸人カ軍事上ノ目的ノ爲ニ使用シ居リシ濟南鐵道ヲ略取スルヲ得タリ爾來日本ハ當時獨逸ノ有セシ權利ノ享有ノ繼續シ來レリ獨逸根據地ノ陷落ニ依リ極東ニ於ケル獨逸ノ軍事的並政治的策動ノ根底ハ全然潰滅セラレ其ノ結果再ヒ之等地方ニ於テ何等障害ナク且自由ニ通商交通ヲ營ミ得ルニ至レリ

今ヤ對逸宣戰布告中明ニ記載セラレタル次第ナルカ日本ハ從來多大ノ犠牲ヲ拂ヒテ贏チ得タル一切ノ功果ヲ水泡ニ歸セシムルカ如キ獨逸ノ極東策動ヲ復活セシムルカ如キ事態ニ對シテハ自カラ晏然タルコト能ハズ之レ前顯甲項ノ要求ヲ爲スノ已ムヲ得ナル所以ナリ

膠州灣陷落ニ續キ印度洋並太平洋（濱洲航路ヲ含ム）ヨリ敵船艦ヲ掃蕩シ之等水面ニ於テ全然敵ノ海賊的行爲ナカラシムルニ至ラムコトハ頗ル緊急ノ要務トナレリ依ツテ日本海軍ハ該目的貫徹ノ爲英國海軍ノ策動ニ協應シ其ノ策動範囲

ヲ擴張シタリ

敵ノ船艦ハ優勢ナル日英海軍ノ追及ヨリ免レムトシテ畫策怠ラス現ニ日本艦隊カ東「カロリン」群島ノ「ボナーバ」到著ノ際ノ如キ敵ノ船艦既ニ同港ヨリ逃出セルコトヲ發見セリ但シ各種ノ遺留物件ヨリ之ヲ察スルニ之等敵ノ船艦ハ同港ヲ以テ其ノ根據地トナシモ尙海賊的行爲ヲ續行セムカ爲諸般ノ準備ヲ整ヘ居ルコト毫モ疑ノ餘地ナキニ至レリ之等事情ノ下ニ敵ノ計畫ヲ挫カム爲獨領南洋諸島ヲ直ナニ占領セサルヘカラサルコトナレリ
爾來赤道以北ニ於ケル獨逸所領ハ日本ノ占領ニ歸シ其ノ監督ノ下ニ置カレ來レリ之等諸島ノ住民ニ對シテハ生活ノ安固ヲ保障スル爲職業ヲ與ヘ且學校ヲ建設シテ以テ其ノ啓發ニ勉メ居ル結果之等住民モ現在ノ制度ニ全然満足シ居レリ之等諸島ノ全面積ハ約二千五百平方「キロメートル」ニシテ各種々族ヨリナル數千ノ人口ヲ有ス之等種族ハ各自特有ノ言語ヲ有シ通譯ニ依ルニ非スムハ相互ノ諒解ヲ計ル能ハス要スルニ此等住民ハ今尙原始的狀態ニアリ到底自カラ近代ノ意義ニ於ケル政治的經濟的並社會的ノ組織ヲ達成スルノ能力ナシ現ニ此等島嶼ヲ占領セル日本ハ前述ノ如キ現況ニ立至リタル諸般ノ情勢並本件ニ關スル日本國論ノ一致セル事實ニ鑑ミ茲ニ之等諸島ノ領有ヲ確定的ノモノトシ以テ島民ノ保護並其ノ境遇改善ノ事業ヲ繼續セムコトヲ要求ス終リニ日本努力ノ程度ニ鑑ミ（脱）ヲ説述セムトス

二、支那ノ意見陳述希望

顧維鈞ヨリ本問題ハ支那ノ利害ニ重大ナル關係アルヲ以テ適當ノ機會ニ於テ支那代表者ノ意見ヲモ聴取セラレムコ

トヲ希望スル旨ヲ述ブ

三、「ウヰルソン」ノ國際聯盟委任統治說

イ 「ウヰルソン」ノ主張

午前ノ會議ニ於テ獨領殖民地其ノ他係争領土ハ之ヲ國際聯盟ノ Mandataires (受任者)ニ委託スペシトノ說出タルニ「バルオファ」ハ右ハ總テノ問題ニ適用セムトスルモノナリヤト尋ネタルニ「ウヰルソン」ハ各個ノ場合ニ付決スルヲ要スト答ヘタルカ右牧野男ノ朗讀了ルヤ「ウヰルソン」ハ殖民地ノ國際聯盟委任ニ關スル次ノ如キ所見ヲ述フ
「國際聯盟ニ於テ「マンダトリリー」(受任者)ヲ選定シ之ニ殖民地統治ヲ委任セムトスルノ覺悟ハ此ノ上ノ領土併合ヲ非トスル世界的感情ニ基クモノトス獨逸殖民地ヲ返還セサルコト既ニ決定セラレタリトセハ此ノ未開ノ土地人民ヲ開發誘導スルカ爲ニハ何等カ他ノ方案ヲ案出セサルヘカラス例ヘハ南阿弗利加ノ現狀トシテハ南阿聯邦ニ屬セシムルカ若ハ其ノ住民ノ利益ノ爲ニ之ヲ開發スル制度ヲ發見セサル可ラス南阿聯邦ヲ南西阿弗利加ノ「マンダトリール」(受任者)トスル場合ヲ假定スレハ國際聯盟ヨリ(一)施設ハ住民ノ狀態改善ノ見地ヨリスルコト(二)同地方ノ資源利用ニ付テハ聯盟國ニ對シ何等ノ偏頗無キ様スルコト等ノ大體方案ヲ設ケ南亞聯邦ニ付テハ右ノ方針ノ下ニ自己ノ法律ヲ爲シ得ラル限リ南西阿弗利加ニモ及ホスマク且住民ノ利益ト一致スル限り聯邦ノ「アンネツクス」トシテ之ヲ統治スヘシ行政ノ費用ニ付テハ財政上ノ協定ニ依ルヘク若關稅ヲ包含スルトスレバ南西阿弗利加ト貿易スルノ各國ニ對シ一樣ナルヘキト共ニ各國ハ之ト自由ニ交通貿易スルノ權利ヲ有スヘシ」

此ノ時「ロイドジョージ」ハ

「南阿聯邦ハ現在英國ニ對シ三「パーセント」ノ特惠ヲ與ヘ居ル處右特惠ハ「ウヰルソン」大統領ノ計畫ニ依レハ南西阿弗利加ニモ及フヘキヤ」

ト質問シタルニ「ウヰルソン」ハ

「然ラス」

ト答ヘ次テ「ウヰルソン」ハ

「特惠ハ南西阿弗利加ニハ及ハサルモ此ノ例外ヲ除クトキハ委任、統治ト併合トノ間ニ何等ノ差異モ有ラサルヘシ唯タ「マンダトリリー」(受任者)タル國ハ種々其ノ感情ヲ刺戟セラル如キ事件ニ逢着スルト同時ニ聯盟ヨリ絶エス干渉ヲ受クルカ如キコトアルヘシト懸念スルモノナキニ非サルヘキモ「マンダトリリー」ニシテ満足ニ其ノ義務ヲ盡スニ於テハ別段面倒ナカルヘク若夫レ財產上ノ負擔ヲ生スルカ如キ場合ニ立至ルトスレハ聯盟各國ニ於テ一定ノ割合ノ下ニ費用ヲ負擔スルコトトシ可ナルヘシ要スルニ委任統治ハ住民ノ眞ノ希望ヲ確メ得ルノ日ニ達スル迄世界一般カ「マンダトリリー」ヲ通シテ全行政ヲ行ハムトスルモノナリ若此ノ委任統治ヲ以テ結局諸大國ノ現在同意スルヲ欲セサル併合ニ導ク Camouflage (假裝的扮飾)ニ外ナラスト爲スモノアラハ之亦誤レリ世界環視ノ間ニ於テスル委任統治ニ於テ不公平ナル措置ハ決シテ爲シ得ヘキモノニ非ス之ニ反シ公平ナル行政ニ依リ「マンダトリリー」タル國ニ併合セラルニ至ル場合アリトスレハ余ハ決シテ之ニ反對スルモノニ非ス茲ニ一ノ懸念スヘキモノハ侵略ノ危険ナリ併合ニ關スル現在ノ狀態ニシテ永久ニ繼續スルモノトスレハ余ハ去ル二十四日ニ述ヘラレタル濱洲代表者「ヒュース」ノ說ニ同意セサルヲ得サルヘキモ氏ノ見解ハ全然國際聯盟ニ信賴セサルニ基クモノナリ若一國ニシテ委任統治ノ目的タル國ヲ併合セムト企ツル如キ場合ニハ聯盟各國ハ武器ヲ以テ之カ脅惱ニ當ルヘシ前ニ領土近接ニ基ク危險ハ既ニ過去リ唯タ殘ルハ委任統治濱洲ノ統治ノ如ク成ソ得サルヤ否ヤニ存ス

國際聯盟ニシテ以上ノ諸點ヲ遂行スルノ實力ナキコト明カナラハ世界ハ再ヒ混亂ノ菴ト化スヘキカ故ニ國際聯盟ハ是非トモ成功セシメサルヘカラス而シテ其ノ成否ハ一一ニ懸リテ全權委員諸氏ノ決心如何ニ在リ國際聯盟成立スルトスレハ保護ノ見地ヨリ併合ヲ必要トスルコトナク既ニ其ノ必要ナシトスレハ委任統治採用ニ反對スヘキ理由何レニ有リヤ」

ロ、南阿聯邦代表者ノ反對意見

南阿首相「ボタ」將軍ハ二十四日同國防大臣「スマツツ」將軍ノ述ヘタルト同様ノ理由ヲ述ヘ獨領南阿ハ地勢防禦等ノ點ヨリ見ルモ當然「サウス、アフリカ、ユニオン」ト合一スルヲ至當トスヘク「ウヰルソン」大統領ノ識見ノ高遠ニシテ正當ナルハ之ヲ認ムト雖今日ハ寧ロ國際聯盟カ成立シテ其ノ效力ヲ發揮スルヲ希望スルニ止ムヘク更ニ進ムテ國際聯盟ノ受任者ニ領土ヲ託セムトスルハ早計ニ非セヤト述フ

八、濠洲代表者ノ反対意見

「ヒュース」ハ前回ノ所見(二十四日)ヲ敷衍シ何故ニ一國ノ政府ヲ超越シタル國際聯盟ニ委託セラレタル一種ノ邦土ヲ作ルノ必要アリヤ濠洲ノ現狀ハ濠洲人カ濠洲ヲ支配シ得ル能力アルコトヲ立證シ居レリ此ノ濠洲ノ權利ヲ差措キテ國際聯盟ニ委託セシムトスルハ適當ニ非ス米大統領ハ世界ノ人心ハ領土併合ニ反対ナリト謂フモ各國カ今日講和條約ニ依リテ處決セムトスルモノハ領土問題ニ外ナラス「アルサス、ローレン」ハ回復ナリトノ事故之ハ別問題トスルモ其ノ他ハ凡テ領土併合ノ問題ニシテ余ハ輿論カ之ニ反対シ居レリトハ信スル能ハス吾人ハ濠洲地方ノ事情ニ通シ居リ「ニユーギニ」等ノ諸島ヲ支配スルニ最モ適任ナリト信スルヲ以テ先以テ吾人ヲシテ支配セシムヘク濠洲カ其ノ支配ニ適當ナラサルコト明白トナリタル時ニ至リ國際聯盟ニ委任スルモ可ナルヘシト述フ

ニ、「ロイド、ジョージ」殖民地政治家ノ意見ヲ徵スルノ説

自分ハ國際聯盟委任案ノ内容ニ付テハ今日初テ「ウヰルソン」氏ヨリ聽ク所ナルカ本案實際ノ運用如何ニ付テハ殖民地政治上經驗アルモノノ意見ヲ徵スルヲ必要ト考フ例ヘハ國際聯盟受任者ニ或ル國ヲ支配セシムルモ其ノ政治・費用ハ何人カ之ヲ負擔スヘキカ「メンボタミヤ」ノ如キ之ヲ聯盟ノ配下ニ置クモ同國カ隆盛トナリ其ノ政費ヲ支辨シ得ルニハ今後數百年ヲ要スルヤモ知ルヘカラス獨領西南阿弗利加ノ如キ海軍維持ノ必要アルヘキカ其ノ防備費ハ何人カ負擔スヘキカ現ニ英國カ「ウガンダ」(Uganda Protectorate)ヲ開拓スルニモ未タニ其ノシ

経費ヲ補助シ居レリ之ニ依ルモ本問題ニ付テハ殖民地政治家ノ意見ヲ徵スルノ要アリ

ホ、「ウヰルソン」ノ反対

英國カ其ノ殖民地ヲ後見シ其ノ費用ヲ補助負擔シ居ルコト英首相ノ謂ハル、通ニシテ「スマツツ」將軍ハ英帝國ハノ國際聯盟ナリト云ヘルカ自分ノ提議ハ斯ノ如ク英國カ現ニ其ノ殖民地ニ對シ行ヒツツアル所ヲ全世界ニ實行セムトスルニ在リ費用モ委任者カ之ヲ負擔シ得ヘク其レニ付今直ニ専門家ノ意見ヲ徵スルノ要モ無カルヘシ

「然レトモ」「ロイド、ジョージ」自説ヲ主張シ遂ニ同日夜「ロイド、ジョージ」英領殖民地政治家ノ意見ヲ聽取り二十八日午前本討議ヲ續行スルコトトシヲ散會セリ

○講和ニ關スル一月二十八日第十一打合會　(午前之部)

一、日 時　一月二十八日自午前十時

一、議題　獨逸殖民地問題

イ、「ロイド、ジョージ」

一月二十七日昨夜ノ「ウヰルソン」氏ノ意見ニ付テ殖民地問題専門家ト相談セリ濠洲、新西蘭等ノ要求ニ付テハ特ニ大統領ノ考量ヲ煩ハシ度シ但シ一般的ニ英國ノ兵力ニテ占領シタル獨逸殖民地ニ對シ大統領ノ意見ヲ適用實施スルコトハ必スシモ不能ナラサルヘシ尙ア弗利加殖民地ニ關シテハ英佛何レモ關係ヲ有スルニ付佛國ノ意見ヲ徵スルノ必要アリ又本件ニ關シテハ英佛間及日英間ノ取極有リ之ヲ持寄リテ更ニ討議致度シ

ロ、新西蘭首相「マッセイ」

所謂國際聯盟ハ維納會議ニ於テ大國聯合シテ之ヲ試ミムシタル先例モアリ其ノ成功如何ニ就テハ未タ確言シ得サル所

ナルヲ以テ新西蘭ハ「サモア」カ何レカ敵國タルヘキ者ノ手ニ陷ルニ於テハ自國ノ危險ヲ感スルノミナラム同島及「クック」島ハ新西蘭ト人種ヲ同ウシ社會法律制度ノ地位相同シキヲ以テ併セテ一體ト爲スコト最モ自然ニシテ他國ノ統治下ニ置クヲ許ス能ハス且新西蘭ハ其ノ國土開發ノ爲ニ既ニ一億磅ヲ費シタルカ外部ヨリ委託ヲ受ケ其ノ命令下ニ開發スルニ非スシテ自國專屬ノ領土ナレハコン如斯キヲ得タルモノナレ加之本戰爭ニ於テ新西蘭カ失ヒタル多大ノ人命戰費ノ賠償ヲ得可キヤ否ヤ甚タ疑問ナルヲ以テ是等諸島ヲ戰利品トシテ取得スルモ不當ニ非ナルヘシ
ハ、「ウヰルソン」大統領

維納會議云々トハ即チ神聖同盟ヲ指サル、モノナラムカ右ハ專制政府ノ稱號ニシテ世界平和ノ禱首ヲ念トスル今日ノ國際聯盟ト同日ノ論ニアラス又「サモア」ノ敵手ニ落ツル場合云々ト云ハレタルカ米國カ英國新西蘭ニ對シ全然友好的ナルコトハ勿論ニシテ何等危惧スヘキモノアル理ナシ

ニ、顧維鈞（獨逸殖民地協議ニ際シ支那ハ利害關係國ノ故ヲ以テ特ニ列席發言ヲ許サル本日ハ王正廷、顧維鈞兩人出席シ陸徵祥ハ來ラス）

支那ハ日英兩國ノ努力ニ依リ膠州灣ノ略取セラレタルニ對シ謝意ヲ表スルモノナリ然レトモ獨支開戰ノ結果獨支間ノ條約無效トナレル今日支那國民ハ膠州灣ノミナラス鐵道其ノ他ノ利權ヲモ併セテ之カ還附ヲ希望ス獨逸ノ有シタル所ヲ奪ヒ更ニ他國ニ移スハ不當不理ノ處置ト云フ可シ山東省ハ孔孟ノ生誕地ニシテ且軍事上交通上重要ノ地ナリ從テ支那カ其ノ還附ヲ希望スルハ不正ニ非ス其ノ還附ノ決定ヲ講和會議ニ於テ見ムコトヲ希望ス

ホ、牧野委員

日本ノ膠州灣ヲ攻略シタル趣旨ハ對獨最後通牒ニ明記セラル通ニシテ日本ニ於テ同地ヲ占領スルコトモ支那政府ニ於テ諒トシ居ラル、コトト信ス其ノ後支那政府トノ間ニ友誼的ニ意見ノ交換ヲ爲シ同地還附及鐵道等ニ關シ取極ヲ結ヒアリハ、「ウヰルソン」及「クレマンソウ」ハ右取極ヲ閱覽スルコトヲ得ヘキヤト述ヘタルニ付牧野委員ハ右ハ内密ノ取極ヲモ含

ト、顧維鈞

日本委員ノ確認スル一九一五年ノ日支協定ハ實ハ支那カ甚タ苦境ニ陥リタル際之ヲ取結ヒタルモノナルヲ以テ支那側ヨリ見レハ假協定ニ過キス更ニ講和會議ニ於テ確認ヲ必要トスルモノト信シ居ル次第ナリ

（支那委員ハ列席者ニ對シ本件ニ關聯スル諸般ノ文書ヲ提供スルニ異存ナキ旨陳述シタリ）

チ、牧野委員

膠州灣ニ付テハ支那トノ取極ニ明定セラル、カ如ク講和會議ニ於テ日本カ自由ノ處分權ヲ得タル場合ニ於テ之ヲ支那ニ返還スル筈ナリ

リ、顧維鈞

日本ノ手ヲ經ルノ煩瑣ナル系統ヲ除キ直接支那ニ還付スルコトニセラレ度シ

此ノ時既ニ午餐時刻迫リ會長ハ散會ヲ宣告シタルヲ以テ牧野委員ハ此ノ問題ニ付更ニ發言ヲ留保シ閉會セリ尙支那側委員ハ列席者ニ對シ本問題ノ關係書類ヲ提出スルニ異議ナキ旨述ヘ居レリ

○一月二十七日ノ聯合小國會議

一、議長「ジユール、カンボン」Jules Cambon（佛國外務省書記官長）

一、議決事項 各種委員會ヘノ小國委員割當

（イ）國際勞動委員會ヘ（投票ヲ用ヰス決定）

五人ホルグエイ
希臘一人
(南米各國代表ノ意義ニテ)

(ロ) 戰時責任調査委員會へ(投票ヲ用ヰス決定)
「チエック、スローヴァツク」一人

五人ホルグエイ
白耳義一人

五人ホルグエイ
塞爾比一人

五人ホルグエイ
羅馬尼一人

五人ホルグエイ
波蘭一人

(ハ) 國際聯盟委員會へ(競爭ノ結果投票ニヨリ決定)
白耳義一人

五人ホルグエイ
伯刺西爾一人

五人ホルグエイ
支那一人

五人ホルグエイ
塞爾比一人

五人ホルグエイ
希臘一人

(ニ) 國際交通路委員會へ(競爭ノ結果投票ニヨリ決定)
白耳義一人

五人ホルグエイ
支那一人

五人ホルグエイ
塞爾比一人

五人ホルグエイ
葡萄牙一人

五人ホルグエイ
希臘一人

五人ホルグエイ
羅馬尼一人

四人ホルグエイ
希臘一人

四人ホルグエイ
希臘一人

四人ホルグエイ
希臘一人

四人ホルグエイ
希臘一人

(ホ) 尚國際聯盟委員會並國際交通路委員會ニ對シテハ其ノ重要ナル性質ニ鑑ミ大國會議ノ割當テタル五人ノ數ヲ將來
増加スヘキコトヲ希望トシテ本會議書記局ニ提出スルコトニ決定ス其ノ增加委員候補者次ノ如シ
國際聯盟委員會へ(投票決定)

國際交通路委員會へ(投票決定)

羅馬尼一人

希臘一人

希臘一人

希臘一人

希臘一人

希臘一人

希臘一人

備考 右國際聯盟並國際交通路兩委員會トモ支那側ヨリ委員ヲ出スコトト成リタルハ支那側熱心運動ノ結果ト察セ
ラル(脱)及王正廷ヲ任命シ居ル事實ニ徵シ又他ノ方面ヨリ得タル情報ニ照シ支那側ニ於テ租借地又ハ鐵道問
題ニ關スル外國特ニ日本ノ特權ニ付種々ノ議論ヲ持チ出タサムトスルノ底意ナルヤニ思察セラル

○講和ニ關スル一月二十八日第十一打合會（午後之部）

一、日時 一月二十八日自午後四時至同六時

一、議題 獨領殖民地問題

一、佛國殖民大臣「シモン」ノ委任統治反對說

「トーゴーランド」「カメルン」「コンゴー」其ノ他佛領阿弗利加諸地方ト近接シ人種經濟交通ノ關係上當然佛國領土ニ編入スルヲ至當トスヘク之ヲ國際聯盟ノ委任統治ノ下ニ置クカ如キコトアラムカ土地ノ開發ニ便ナラサルハ勿論小國ハ其黃用ニ堪ヘサル爲受任者ハ常ニ大國ニ限ラルコトナリ結局獨領諸殖民地ハ關係國ニ併合スルヲ妥當トナスニ至ルヘシ佛國ハ從來殖民地經營ニ注意シ其ノ發展開發並治安維持ノ爲多大ノ犠牲ヲ拂ヒ現ニ北阿弗利加ノ爲九十億法、西南阿弗利加ニ六億法、赤道阿弗利加ニ二億七千萬法ヲ費シタル有様ナルカ現今所謂殖民政策ハ昔ト異リ土地ノ開拓土人ノ教化並健康ノ増進ニ重キヲ置キ或ハ奴隸制度ヲ廢シ或ハ「アルコール」ノ發賣ヲ禁止スル等専ラ土人ノ幸福増進ヲ計ルニ在リ佛國之ヲ實行シ且功ヲ收メタリ即チ「トーゴーランド」及「カメルン」ハ之ヲ純然タル佛國領土トナスコトハ適當ニシテ之カ爲毫モ「ウヰルソン」十四箇條ニ反スルカ如キコトナシ

二、英「ロイド、ジョージ」ノ委任統治贊成說

「マンダラール」主義ハ實行上若干困難ニ逢着スルコトアルヘキモ根本的ニ不可能ニハ非サルヘシ奴隸制度ノ禁止「アルコール」發賣禁止等土人ノ幸福増進ニ注意スルニ於テハ委任統治ノ下ニ置クモ差支ナカル可ク少クトモ英本國軍ノ占領スル地方ヲ委任統治ノ下ニ置クニハ異存ナシ但シ先ツ其ノ根本方針ヲ即決スルノ要アリト思惟ス

三、米「ウヰルソン」

英本國人ノ占領地ヲ委任統治ノ下ニ置クモ他ノ獨領ニ付潔洲、新西蘭、南阿、日本、佛國共ニ委任統治ニ反對スル以上ハ本問題ハ實行不可能トナリ結局舊獨領殖民地ハ關係大國ニ於テ之ヲ分取スルコトトナルニ至ルヘン斯テハ戰前不定ノ狀態ハ依然繼續セラレ各國練兵造船ニ多大ノ出費ヲ要スヘク而モ世界ハ依然混沌不定ノ狀態ヲ持續シ國際間從來ノ猜疑ヲ其ノ儘殘存セシムルコトナルヘシ吾人ハ空前ノ危險ニ堪ヘ此ノ大戰ヲ敢行シ乍ラ今日尙國際聯盟ヲ成就シ得ナルニ於テハ天下興笑ノ標的トナルノミナラス又千秋ノ恨事ナリト云フヘシ國際聯盟ハ本會議ノ試金石ニシテ之ヲ成就シ得スムハ本會議ノ目的ハ之ヲ達成スルコト能ハサルヘシ

四、伊「オランダ」

自分ハ和衷協同シテ本件ノ成立ニ努力スヘキモ例ヘハ A 委任統治ノ期限ニ關スル問題ノ如キ又 B 受任者カ其ノ依託セラレタル土地ニ各其ノ自國法ヲ施行スヘキヤ等ノ六ヶ數問題アリ要之國際聯盟ノ問題ニハ原則トシテ贊成スルモ今少シク考慮ヲ加フルノ餘地アルヘシト思考ス

五、佛「クレマンソウ」

自分ハ必シモ佛國殖民大臣トシテノ「シモン」ノ說ヲ支持スルモノニ非ス元來今日ノ所謂國際聯盟ニハ其意義ニ於テ二種ノ別アリ一ハ世界平和擁護ノ爲ノ國際聯盟ニシテ B 他ハ國際聯盟ヲ政府ノ一機關トセムトスルモノナルカ平和確保ノ爲ノ國際聯盟ハ衷心之ヲ歡迎スルモ國際聯盟ヲ以テノ行政機關ノ如クセムトスルモノニ至リテハ之ニ左袒スルコトヲ得ス例ヘハ受任者カ其ノ所領統治ニ關シ統治委任ヲ與ヘタル國ノ指命ヲ受クルコトセムカ國際聯盟ハ常ニ受任者ニ干渉シ其ノ自由活動ヲ阻止スルコトナルヘシ今日五大國ノ同盟ハ言ハハノ國際聯盟ニシテ吾人ノ認諾ナクシテハ何國ト雖暴威ヲ擅ニシ得サルヘク若シ吾人ニシテ斯ノ如キモノアル場合協力是ニ當ルノ決心アルニ於テハ特ニ政府ノ機關トシテノ國際聯盟ヲ構成スルノ要ナカルヘシ

六、英「ロイド、ジョージ」

「クレマンソウ」氏ノ所説案ニ可ナルモ「ク」氏希望ノ意味ノ國際聯盟ノ下ニ於テ「マンダテール」ヲ作ルコト必シモ不可能ニハ非サルヘク先ツ其ノ權限ヲ定メ實行セサル場合國際聯盟ヨリ干涉スルコトト爲シ得ヘシ之ヲ要スルニ殖民地問題ノミナラス總テノ問題ヲ今日ノ如ク永ク不定ノ狀態ニ置クコトハ不可ナリ少クトモ英國ハ現ニ高加索、小亞細亞、「シリア」、東部アフリカ等ニ多數ノ兵力ヲ有シ一日モ早ク其ノ撤退ヲ欲スルモ撤退後ニ於ル同地方處置ノ問題未定ナル爲不本意ナカラ今尙駐屯セシメ置カサルヘカラサル現状ナリ且又自分モ成ル可ク速ニ歸國ノ要アリ旁ミ一日モ早ク本問題ノ解決ヲ希望ス

七、其ノ他若干意見ノ交換アリタルモ何等決定ヲ見ルニ至ラスシテ散會セリ

○講和ニ關スル一月二十九日第十二次打合會

一、會議日時 一月二十九日自午前十一時至午後

一、出席者 五國員

一、內容

甲、波蘭及「チエツク」

(一) 英國ヨリ在波蘭聯合與國代表者ニ對スル訓令案(其ノ要點ハ波蘭人ノ係争地點進撃ヲ抑止シ事端ヲ醸サザラシムルニアリ)ヲ配布シ

(二) 次テ波蘭代表委員ノ波蘭ノ形勢ニ關スル陳述ヲ聽ク

A 波蘭代表委員ハ露國過激派ノ侵入獨逸人ノ横暴横領波蘭人虐殺ノ煽動ノ爲三方ヨリ攻立テラレ波蘭カ苦境ニ陥レルコトヲ説明シ殊ニ獨逸側ノ休戰條約不履行ヲ論難シ之カ救濟ノ焦眉策トシヲ聯合軍ノ「ダンチヒ」港及同港ヨリ

「トルン」ニ至ル鐵道線ノ占領ヲ要求シタリ

B 休憩後午後四時再開波蘭委員ハ千七百七十二年波蘭第一回分裂前ノ舊領土復活ヲ希望シ上「シレシャ」ニ於ケル

「チエツク」トノ係争ニ説及セリ

(三) 「チエツク」代表委員ハ「バルフォア」氏ノ注意ニ依リ特ニ前記波蘭トノ係争問題ヲ詳説シ人種ノ多少ニ係ラス現ニ其ノ占領セル「サンタン」地方及鐵道線絡ヲ是非トモ「チエツク」ニ併合セサルヘカラサル所以ヲ經済上ヨリ力説シタリ

(四) 「バルフォア」ハ右爭點ニ於テ別ニ双方委員ノ妥協會議ヲ開キ波蘭行聯合側代表者ヲ之ニ立會ハシムルコトトセリ乙、英國委任統治案提出、會議ノ席上英國委員「ハンケー」ヨリ委任統治ニ關スル英國案ナリトテ各國全權ニ次ノ如キ英國案文ヲ配布シ三十日ノ打合會開催迄ニ考究ヲ求メタリ

○委任統治ニ關スル決議

(一) 獨逸帝國ノ一部分ヲ構成スル各殖民地ニ於ケル獨逸統治ノ治績ニ鑒ミ且世界幾多ノ方面ニ於テ獨逸カ潛水艇根據地ヲ所有シ各國民ノ自由安寧ヲ侵迫セル事實ニ顧ミ聯盟各國ハ如何ナル事情アリトモ獨逸ノ殖民地ハ一切是ヲ獨逸ニ返還セサルヘキコトヲ約定ス

(二) 是ト同様ノ理由ニ依リ殊ニ土耳其カ其ノ從屬人民ニ對スル傳來的ノ虐遇並近年ニ於ケル「アルメニヤ」人殺戮等ノ事實ニ鑒ミ聯盟各國ハ茲ニ「アルメニヤ」「シリア」「メンボタミヤ」「バレスタイン」及亞刺比亞ヲ今回提案ニ基キ土耳其ヨリ全然分離セシメサルヘカラストスル意見ニ一致セリ右ノ處置ハ土耳其ノ他ノ部分ニ關スル取極ニ對シ何等障害タルコトナシ

(三) 獨逸竝土耳其所屬ノ是等殖民地竝領域ハ近代世界ノ世知辛キ狀況ノ下ニ於テハ未タ獨立ヲ爲シ得サル人民ノ居住スル處ナルニ付テハ聯盟各國ハ今ヤ彼等ノ必要ニ基キテ生シタル機會ヲ捉へ是等人民ノ安寧發達ハ文明世界ノ神聖ナ

ル任務ナリトスル原則ヲ是等地或ニ適用シ該任務遂行ニ關スル保障ハ之ヲ國際聯盟ノ憲法中ニ包含セシムヘキコトヲ
協定ス

(四) 聯盟各國ハ慎重ナル審議ノ結果該原則實行ノ最良方法ハ是等人民後見ノ任務ヲ其ノ資源經驗或ハ地理的地位ニ鑒
ミ最モ善ク該責任ヲ引受ケ得ル先進國民ニ之ヲ托シ此等先進國ニ於テハ國際聯盟ニ代リ受任國トンテ右後見ノ任務ヲ
遂行スル事トスルニ在リト信ス

(五) 聯盟諸國ハ委任統治ノ性質ハ人民發達ノ程度其ノ國ノ地理的地位經濟狀態並其ノ他類似ノ事情ニ依リ自ラ差異ナ
カルヘカラスト思惟ス

(六) 聯盟國ハ從來土耳其帝國ニ屬シタル或團體ハ獨立國民トシテ假承認ヲ受ケ得ル程ノ發達ヲ遂ケ居ルモノト認ム但
シ是等團體ニシテ獨リ立チヲ爲シ得ル程度ニ達スル迄ハ受任國ニ於テ行政上ノ勸告並幫助ヲ與フルモノトス是等團體
統治受任國ノ選定ニ際シテハ主トシテ同團體ノ希望ヲ考慮セナルヘカラス

(七) 前記以外ノ人民殊ニ亞刺比亞人ハ統治受任國ニ於テ奴隸買賣武器及「アルコール」飲料取引ノ如キ社會的惡弊ヲ禁
止シ且又警察以外ノ目的ノ爲ニスル土人ニ對スル軍隊的訓練並砲壘或ハ陸海軍根據地ノ設定ヲ防止スルト同時ニ國際
聯盟ノ他ノ盟員ノ貿易商ニ對シ均等ナル機會ヲ確保ス可キ條件ノ下ニ彼等居住地域統治ノ責ニ任せサル可カラサルカ
如キ狀態ニ在ルモノト認ム

(八) 最後ニ例へハ西南阿弗利加及南太平洋ノ或島嶼ノ如キ地域ハ人口稀薄ノ爲又ハ面積小ニシテ且文明ノ中心ヨリ隔
在シ居ル爲或ハ統治受任國ニ地理的ニ接近セル事實及其ノ他ノ状況ニ依リ土民ノ利害關係タニ保障セラル、ニ於テハ
受任國ノ構成分子トシテ同國ノ法律ニ據リ最モ善ク統治セラレ得ルモノト認ム

前記何レノ場合ニ於テモ統治受任國ハ委任セラレタル地域ニ關シテハ國際聯盟ニ對シ年報ヲ提出セサル可ラス

参考

甲 英國ノ委任統治案ニ關シ一月二十九日ノ會議終了後牧野男ト「ロイド、ジョージ」トノ内談要領

一、「ウヰルソン」トノ協議

牧野男ヨリ英國案ニ付テハ既ニ米國大統領ト協議ヲ遂ケタル次第ナリヤト尋ネタルニ對シ英國首相ハ未タ協議ヲナ
シタルコトナキ旨ヲ答フルト同時ニ米國大統領カ議場退散前右英國案ヲ一讀シタル上ノ感想トシテ英國首相ニ送リ
タル書面ヲ示シタルカ右ニ依レハ大統領ハ本案ニ略々同意セルモ尙大體論トシテ意見アルニ付何レ明日ノ會議ニ於
テ述フル處アルヘシト云ル由

二、英領殖民地ノ賛成

「ロイドジョージ」從來「マンダトリ一」ニ強固ニ反對セル濱洲、新西蘭、南阿ノ首相等ハ本案ニ對シテモ初メ反對セ
シカ遂ニ同意スルニ至リタル旨ヲモ語レリ

三、委任統治國

牧野男ハ本案ニ豫見セラル、委任統治國(「マンダトリ一、ステート」)ハ如何ニ決定セラルヘキト問ヘルニ何等相
談ヲ遂ケタルコトナキモ自ラ明白ナルニアラスヤトテ暗ニ現在各殖民地ニ關シ占領セル國々ヲ指定スルノ意味合ヲ
漏ラセリ

乙 委任統治ニ關スル牧野男ノ意見

「ロイドジョージ」ノ談及四園ノ形勢ヲ綜合シテ之レヲ判斷スルニ國際聯盟ハ必ス成立スヘキ成行ナルモ其ノ組織内容
ノ細目ハ未知數ニ屬シ今尙行詰リノ状態ニアリ然ルニ休戦後既ニ數箇月ヲ經ルモ未タ講和談判ノ經過涉々シカラスシ
テ列國就中英米國人心安定セス自然商工業等ノ手控ヘ沈滯ノ状態ニアルヲ以テ「ロイド、ジョージ」「ウヰルソン」共ニ
一日モ早ク何トカ片附ケ歸國ヲ急キ居ル事情モアリ一方現ニ國際聯盟ニ付テハ「ウヰルソン」「クレマンソウ」ノ間ニ多
大ノ距離ヲ生シ強イテ國際聯盟ノコトニ觸ルルヲ避クルノ不得策ナルヲ自覺シ旁ニ國際聯盟カ他日何等カノ形式ニテ

成立スルモノト豫想シテ此際セメヲ委任統治ノ原則丈ケニアモ協定シ一先ツ英國首相米國大統領トモ歸國セム心組ナリト察セラル形勢斯ノ如クナルヲ以テ本案ハ會議ニ於テ英米ハ勿論濠洲南阿「ニクジーラント」ニ於テ之ニ同意スヘシト推測セラル然ルニ帝國獨リ此ノ大勢ニ抗シテ反對スルハ得策ナリヤ疑ナキ能ハス殊ニ英國委任統治案ハ畢竟「マンダトリー」ノ名義ヲ立テ米國大統領ノ立場ヲ失ハナラシメ實際ハ合併領有ト擇ハサルコトシ英國各自治領ノ同意ヲ得タルニ外ナラスト認メラル然ルニ大體原案ノ通ニ大勢ノ歸結ヲ見ル場合ニハ之ニ同意シ差支ナキヤ大至急御回訓ヲ請フ尙從來ノ經驗ニ徴スルニ此ノ種問題ニ付帝國政府ニ請訓ヲ要ストノ理由ノ下ニ我全權委員ノ態度ヲ決定セサルコトハ不妙不快ノ感ヲ與フル傾アリ將又先決問題トシテ委任統治國ヲ決定スルコトハ國際聯盟ヲシテ「マンダトリー」ヲ行ハシメムトスル根本趣旨ト相容レサルトノ觀念ヲ米國大統領ニ於テ抱ケル事實ニ顧ミ帝國政府カ本案ニ同意スルニ先タチ南洋諸島ニ對シ帝國ヲ以テ「委任統治國」タラシムヘキ了解ヲ豫メ取附ケムト試ムルモ此際成功ノ見込ナシト存ス爲念合セテ申添フ

○講和ニ關スル一月三十日第十三次打合會

一、日 時 一月三十日自午前十一時

一、場所及出席者 前回ニ同シ

一、議題 殖民地問題

(イ) 「ロイド、ジョージ」ハ「マンダトリー」案ニ付提出者トシテ説明ヲ試ミ此際處置ヲ要スル殖民地ハ文化ノ程度土地ノ遠近等事情異ナルモノアリ同一ニ處置シ得ス大體原案ニ依リテ「マンダトリー、スナイト」ノ關係ヲ三様ニ定メサルヲ得スト唱ヘ

(ロ) 「ウヰルソン」ハ「マンダトリー」ノ問題ハ國際聯盟成立ノ上委任當事者ノ選定及其ノ權限ヲ確定スルヲ要スルヲ以テ直チニ決定スルハ不可能ナリトノ趣旨ヲ述ヘ

(ハ) 「ロイド、ジョージ」ハ態度ヲ改メ「ウヰルソン」ノ言ニ從フトキハ一モ問題ヲ決定スルヲ得スト憤慨ノ意ヲ示シ

(ニ) 「ウヰルソン」ハ否國際聯盟ヲシテ最後ノ決定ヲ爲サシムヘキモノナルモ其レ迄ハ假リノ協定トシテ「ロイド、ジョージ」案ヲ容ルルヲ辭スルモノニアラスト應ヘ

(ホ) 「オランダ」ハ漸ク協定ニ達セルヲ喜フ旨ヲ述ヘ尙原案可決セラルル上ハ歐洲及阿弗利加南洋ニ於ケル獨逸領土ハ總テ國際聯盟ノ處決ニ委セラルルモノトシテ「マンダトリー」ノ選定及權限、國際聯盟ニ於テ決セラルル迄ハ此等ノ領土上ニ假ノ「マンダトリー」ヲ設定セラルルヤ又ハ休戰條約ノ通其ノ儘兵力占領ニテ現狀維持トスルカ何ノ途伊國ハ其ノ分前ヲ有スヘキコトト信スト述ヘ

(ヘ) 「クレマンソウ」ハ余ハ國際聯盟ハ未來ノ戰爭豫防ヲ目的トスル自衛機關ナリト思考セシニ斯ノ如クムハ全世界ニ瓦ル一大政治機關ト爲サムトスルモノナルヲ知リ一驚ヲ喫セリト述ヘ

(ト) 濱洲首相「ヒュース」其ノ他列席者一同夫々意見ヲ陳述シ

(チ) 牧野男 ハ此ノ機ニ一言シ置クヘシトテ曰ク腹藏ナク言ヘハ日本政府ハ國際聯盟ノ運用ニ付テハ確信ヲ有セサルモ列強ニ於テ誠意ヲ以テ考慮セラレツツアルヲ以テ此ノ事ニ向テ協力ヲ辭セサル次第ナリ日本政府ハ未タ正式ノ案ニ接セサルモ「マンダトリー」ニ付テハ「ウヰルソン」大統領ノ意見ヲ聽クコトヲ得更ニ「ロイド、ジョージ」氏ノ具體案ヲ見タルニ付前日日本政府ニ請訓シ置キタリ是ニ對スル確定ノ意見ハ素ヨリ政府ノ回訓ニ接シタル上ニ非サレハ決シテ決定スルヲ得ス以上ノ事情ナルニ付目下自分ノ關スル限りハ本案ニ對シ政府ニ請訓ヲ條件トシテ同意ヲ表スルコトヲ言ヒ得ルニ止マルト述ヘ

(リ) 加奈陀首相「ボルデン」ハ國際聯盟成立早々ハ餘り多キヲ期待スルコトハ穩當ヲ缺クモノナリト述ヘ「ウヰルソン」カ本件ノ決定ヲ國際聯盟ニ譲ルノ説ヲ馳セリ

右ニテ午前ノ會議ヲ閉チ午後三時ヨリ繼續開會セリ

(ヌ) 「マツセー」(「ニュージーランド」首相) 午前ノ會議ニテ潔洲首相「ヒュース」ハ依然直接併合ヲ以テ至當ト信

スルモノナルヲ以テ「ロイド、ジョージ」案ニ同意スルカ最後ノ讓歩ナリト述ヘタルカ午後三時繼續開會ノ勞頭ニ於

テ「マフセー」ハ「ヒュース」ト同様直接統治ヲ至當トスルモ此ノ際曲ケテ原案ニ賛成スル次第ナリト述フルヤ

(ル) 「ウヰルソン」ハ色ヲ變シテ「マツセー」及「ヒュース」兩首相ニ對シ以上ノ意見カ本件ニ對スル最後通牒トシテ提出セラルルノ意ナリヤト詰問シタルニ

(ヲ) 「ヒュース」ハ讓歩ノ最大限ナリト應ヘ

(ワ) 「マツセー」ハ自己ノ責任ヲ以テ本案ニ同意シタル最大讓歩ナリト切言シ

(カ) 「ボタ」(南阿首相)ハ意見ノ統一列國協調ノ爲ニハ双方ノ讓歩ヲ要スト述ヘ

(ヨ) 「ロイド、ショーリ」ハ土耳其ノ他ニ於ケル英國ノ撤兵等急フ要スルモノアルモ本件處分決定セサル爲遷延シ居ル事情ヲ述ヘ本件決定ヲ永ク放拋シ得サルニ付他日國際聯盟ニテ確定スルニセヨ此ノ際假リニ該案ヲ採用スルコトノ決議ヲ促シタリ

(タ) 「ヒュース」ハ土民兵ヲ領土防衛ニ使用シ得ル様原案七條ノ修正ヲ求メ

(レ) 「クレマンソウ」亦殖民地ノ土民兵カ任意ニ母國防衛ニ當リ得ルコトト解釋シタシト述ヘタリ

當日ノ會議ハ大要右ノ如クニシテ何等決定ヲ見シニ至ラス各國ノ意見ハ一般ニ「ウヰルソン」ニ反對シ同氏ヲシテ殆ムト孤立ノ地位ニ立タシメタリ

附

○講和ニ關スル一月三十一日第十四次打合會

一、日時 一月三十一日自午後三時至同五時

一、議題

甲、波蘭「チエツク」兩國代表者並聯合國委員ノ會合頃未報告

一月二十九日午後ノ會議ニテ波蘭ニ派遣セラルヘキ聯合國ノ委員ニ於テ一應巴里ニ在ル波蘭「チエツク」兩國代表者ノ意見ヲ徵スルコトニ決定セラルヲ以テ本日午前右委員ハ兩國代表者ヲ會合シ雙方ノ主張ヲ聽取シタルカ「ヌートランス」ハ五國會議ニ列席シ右會合ノ結果ヲ報告シタル該會合ノ際決定セラレタルモノ次ノ如シ

一、波蘭「チエツク」係爭地點ニ關スル一九一八年十一月當該地方官憲ノ間ニ結ハレタル假協定ハ當分之ヲ維持スルコトトシ「テツシエン」以北ハ「チエツク」軍、以南ハ波蘭軍占領シ兩軍ノ間ニ聯合軍約一大隊ヲ置キテ雙方ノ衝突ヲ避ケシムクヘ若聯合軍ヲ派遣シ得サル場合ニハ同地方ニ聯合軍ノ常設委員ヲ設ケ兎ニ角石炭ノ探掘ヲ繼續シ之ヲ兩國間ニ分配スヘクサスレハ「ボヘミヤ」ニ於テ製造スル兵器ハ之ヲ波蘭ニ輸出シ得ヘク從テ「ボルシェウヰキ」ノ同國侵入ヲ防キ得ヘシ

二、「チエツク」軍ハ現占領地ヨリ進マサルコト及雙方ノ俘虜ヲ直チニ解放スルコトニ話經リタルニ付右波蘭派遣聯合國委員ニ與フル訓令中ニ此ノ件ニ付適宜附加スルコトトシ其ノ文案ハ二月一日ノ五國會議ニテ決定スル筈

乙、羅馬尼、塞耳比間係争地「バナト」(Banat)ノ處分ニ關スル兩國代表者ノ意見聽取

(一) 羅國ノ同地方要求理由

一、「バナト」地力ノ「ルーマニア」併合ハ羅國參戰ノ條件トシテ一九一六年八月英、佛、伊、露四國カ同國ニ約束セル

所ナリ

二、「ダニウブ」ハ自然ノ境界ニシテ羅、塞兩國親善ノ關係ヲ維持スルニハ同河ヲ相互ニ超エサルコトヲ要ズ

三、地勢ヨリ見ルモ「バナト」地方ハ「トランシルバニア」地方ニ通ジ他ノ三方ハ西ハ「ティス」(Theiss) 南ハ「ダニウブ」(Danube) 北ハ「マロス」(Mures) 河ニ圍繞セラレ分割スヘカラサル地ナリ將又同地方ハ西ハ工業地ナルカ東ハ山地ニテ林業鑛業ノ外ニ何等ノ產業ヲ起シ得サル實狀ニ付經濟上ニモ東西相倚ルヘク之ヲ分割スルハ同地方ノ利益ニアラサルノミナラス住民ノ人種上ヨリ云ヘハ羅馬尼人多數ヲ占メ居レリ

(二) 塞國ノ反對及要求理由

一、一九一六年羅國ト聯合國トノ密約ハ塞國ノ關知セサル所ニシテ同國ノ認メナルモノナリ蓋塞國代表者「ブエスキチ」ハ當時佛國外務大臣ニ右密約ノ内容ヲ尋ネタルニ佛外相ハ祕密條約ノ故ヲ以テ右要求ニ應セサリシノミナラス塞國ハ或意味ニテハ聯合國ニアラスト迄語リ「ブ」氏ノ意外トセル處ナリキ

二、塞國ハ人民自決ノ主義ニ依リ「バナト」ノ西南部(即「トロンタール」)(Throntal) 全部「テメスバー」(Temesvar) 州及「クラツソー」(Kraszno) 州ノ各一部ヲ要求シ其ノ東部ヲ要求セス蓋右要求地方ハ羅馬尼、塞耳比、獨逸、「マジアール」人等何レモ二十餘萬ヲ算シ必シモ何レカ多數ナリト云フヲ得ス右人口統計ハ常ニ塞國ニ敵意ヲ有セル墺太利政府ノ調査ニ係リ其ノ數字ノ塞國ニ不利ナルハ既往三十年墺國ト親善ノ關係ヲ有セル羅馬尼人ノ人口ト同日ノ論ニ非ス而カモ尙二十四萬モ塞耳比人カ棲息シ居ルノミナラス同地方ハ從來塞國ト歴史上密接ノ關係ヲ有シ居ルヲ以テ此際其ノ所屬ヲ決スルニハ右民意ヲ聽クコト適切ナル方法ナリ

(三) 民意聽取ノ件問答

尙最後ニ羅國ノ「ブラシヤノ」ハ民意ヲ聽クカ爲ニハ現在同地方ヲ占領シ居ル塞耳比軍ヲ撤退スルヲ要スト云ヒ塞國

ノ「ブエスキチ」ハ右占領ハ聯合軍近東司令官ノ命令ニ基クモノナルヲ以テ本席ニテハ決定シ難シト述ヘ「クレマンソウ」羅馬尼ハ民意ヲ聽クノ案ニ同意ナリヤト問ヘルニ「ブラシアノ」ハ羅馬尼ハ「バナト」地方ト親密ノ關係ヲ有スルコト故必シセ之ニ反對セスト答フ